

各務原市 スポーツ推進計画



はばた

翔け！かかみがはら

ひろ

えがお

かんだう

～スポーツで広げよう、笑顔と感動～

各務原市 教育委員会

はじめに

近年、健康に対する意識の高まりや全国的なイベントの開催などにより、スポーツに親しむ機会が増えてきているとともに、スポーツに対するニーズも多様化しています。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることに伴い、市民のスポーツへの関心が益々高まっています。

「スポーツ」は、身体を鍛えたり、記録を伸ばすことだけが目的ではなく、健康維持やストレス解消のほか、様々な人たちと交流して心を豊かにするなど、私たちの生活の中で、極めて重要な役割を果たしています。「体を動かすこと」を大きくスポーツと捉えると、例えば、ストレッチやジョギング、ダンスやキャンプなども、スポーツに含まれるでしょう。スポーツを日常生活の一部として取り入れ、健康で笑顔のあふれる毎日を過ごすことができるよう、市民の皆様様のスポーツ活動を応援してまいります。

本計画では、本市のスポーツ活動における現状と課題を整理し、今後、推進していくべき施策の内容と方向性を綴っております。市民の皆様との対話を重視し、様々な世代の方やスポーツ団体、施設を利用される方にご協力いただき、広くアンケート調査を実施したほか、本市の各部署で進めている、スポーツ関係事業を取り上げ、「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の観点から、様々な施策と具体的事業を精査し盛り込むとともに、計画終了年度である平成36年度の最終目標を、具体的に数値化し、設定いたしました。

今後、市民の誰もが、スポーツに親しむことができる環境づくりのため、計画の達成に向けて、市民の皆様とともに取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、審議をいただきました策定委員会の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

各務原市教育長 加藤 壽志

目次

1章 各務原市スポーツ推進計画の概要	1
第1節 計画策定の趣旨.....	1
第2節 計画の期間	2
第3節 上位計画や関係計画との関係・位置づけ	2
第4節 本計画における「スポーツ」の定義.....	3
第5節 計画策定の経緯.....	3
2章 本市のスポーツ活動における現状と課題.....	4
第1節 数値で見る各務原市の人口とスポーツ推進の背景.....	4
第2節 各務原市のスポーツ活動に関する現状と課題	6
3章 スポーツ推進の方向性.....	44
第1節 各務原市総合計画（目指す姿）	44
第2節 各務原市教育大綱.....	44
第3節 各務原市教育振興基本計画	44
第4節 基本理念	45
第5節 施策の体系	45
4章 具体的な施策	46
基本目標1．スポーツ機会の創出	46
基本目標2．地域スポーツ活動への支援.....	53
基本目標3．スポーツ施設の充実	57
基本目標4．競技スポーツの向上（ホッケーの推進）	60
5章 計画の推進体制	63
第1節 進捗管理体制（P D C Aサイクル）	63
資料編 策定の行程、策定要綱、委員名簿.....	64
第1節 策定の行程	64
第2節 策定要綱	65
第3節 委員名簿	67

1章 各務原市スポーツ推進計画の概要

第1節 計画策定の趣旨

スポーツとは、世界中どこでも実施され、共通のルールの下、日々新しい挑戦が生まれ、努力が自分に刻まれていく素晴らしい文化です。また、スポーツは心身の健全な成長や健康の維持・増進に寄与すると同時に、様々な楽しみを与えてくれます。

国においては平成23年6月、50年ぶりに「スポーツ振興法」が全面改正され、「スポーツ基本法」が制定されました。また、平成24年3月には、スポーツ基本法の理念の実現に向け、国や地方公共団体、およびスポーツ関係団体などが一体となり施策を推進していくための指針となる「スポーツ基本計画」が策定されました。さらに、平成27年10月には文部科学省や厚生労働省など複数の省庁にまたがるスポーツ行政の関係機構を一本化するため、新たに文部科学省のスポーツ・青少年局を母体とした「スポーツ庁」が設立されました。

岐阜県においては、平成24年の「ぎふ清流国体」の開催をきっかけに、スポーツへの興味と実施の機運が高まっており、平成27年に策定された「清流の国ぎふスポーツ推進計画」において、県民が明るく健康で心豊かに暮らし、地域に元気があふれる、スポーツによる「清流の国ぎふ」の実現を目指すとし、県民のスポーツへの参加を促しています。

各務原市においては、「各務原市総合計画」を策定し、すべての市民が日常的にスポーツに取り組み、心身ともに健康に暮らせるまちづくりを目指しています。市民の誰もが、生涯にわたってスポーツに親しみ、子どもが心豊かに成長していく環境を構築するため、各種スポーツ団体やボランティア団体などと協力して、気軽に参加できるスポーツイベントを開催するなど、幅広い世代がスポーツを親しむことができる活力ある地域づくりを促進します。また、施設を快適に利用できるよう充実を図るとともに、ホッケーなど競技スポーツ向上のため、世界レベルで活躍できるトップレベルの選手育成を支援していきます。これまで取り組んできた様々な施策を取りまとめ、市民の声を反映しながら、スポーツにおける中長期の目標と、その実現を可能とする施策を掲げ「各務原市スポーツ推進計画」を策定します。

第2節 計画の期間

本計画の計画期間は、平成28年度から平成36年度までの9年間とします。ただし、計画期間中であっても、事業内容の変更や新たに取り組むべき事項などには柔軟に対応し、必要な変更などを加えるものとします。

	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度	平成 36年度	平成 37年度
総合計画 基本構想	基本構想 H27~H36										
基本計画	前期基本計画 H27~H31					後期基本計画 H32~H36					
実施計画		実施計画									
			実施計画								
財政計画	中期財政計画					中期財政計画					
		▲ 全国レク大会		▲ インターハイ	▲ 日本スポーツ マスターズ	▲ 東京オリンピック・パラリンピック					
	各務原市教育振興基本計画										
	各務原市スポーツ推進計画										
					▲ 確認						▲ 確認

第3節 上位計画や関係計画との関係・位置づけ

本計画は、国の「スポーツ基本計画」、県の「清流の国ぎふスポーツ推進計画」を受け、本市が策定したものです。

本計画の策定にあたり、本市の最上位計画である「各務原市総合計画」や「各務原市教育振興基本計画」など、関連する諸計画との整合性を図りました。

第4節 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」をオリンピックやプロスポーツにみられる勝敗や記録を競う「スポーツ」だけでなく、身体を動かすレクリエーションや、趣味として気軽にできる体力づくり、健康維持・増進のために身体を動かすことなども含めます。

例えば、散歩（ウォーキング）やサイクリング、運動不足解消のため、意識的に通勤手段を徒歩にするなど、日常生活における身体活動やアウトドア活動なども「スポーツ」に含みます。

第5節 計画策定の経緯

本計画はスポーツ活動に関する現状の数値分析に加え、無作為に抽出した市民、小中学生、スポーツ団体、公共スポーツ施設利用者へのアンケート調査を実施し、それらの分析内容について「各務原市スポーツ推進計画策定委員会」の場で議論を重ね、計画内容に反映し策定しました。

策定にあたり実施したアンケート調査

1. スポーツ推進に関するアンケート調査（平成27年7月実施）
 - ・一般市民 2,000人、うち有効回答数 644
 - ・市内の小中学生、中学生合わせて 601人、うち有効回答数 601
2. スポーツ団体へのアンケート調査（平成27年7月、8月実施）
 - ・市内で活動するスポーツ団体 29団体、うち有効回答数 29
3. 市内公共スポーツ施設における満足度調査（平成27年11月、12月実施）
 - ・施設利用者 793人、《屋外施設 531人、屋内施設 262人》、
うち有効回答数 793

2章 本市のスポーツ活動における現状と課題

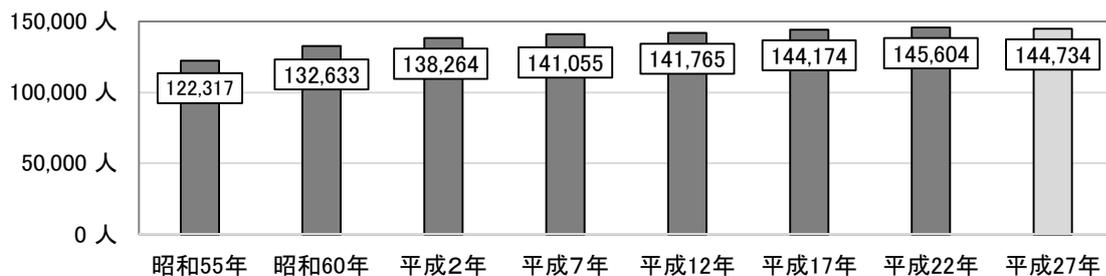
第1節 数値で見る各務原市の人口とスポーツ推進の背景

① 市の人口（少子・高齢化社会を迎えている各務原市）

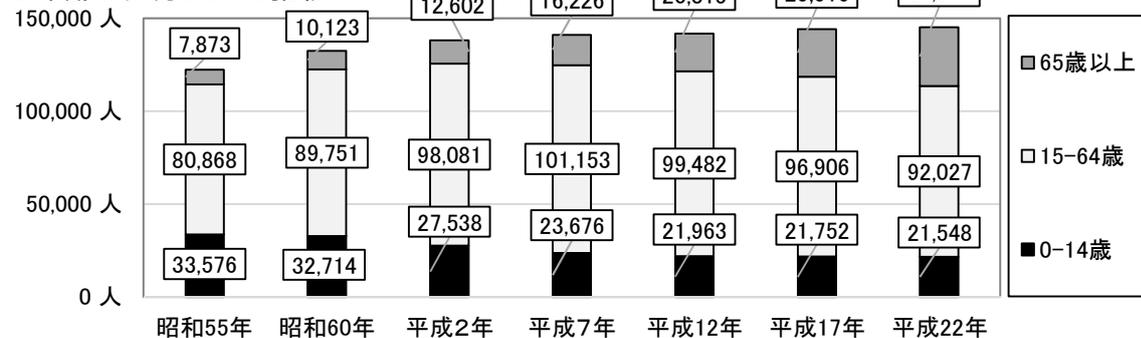
本市の総人口は、平成22年の国勢調査まで微増となっていました。平成27年の国勢調査速報値においては微減となりました。また、住民基本台帳に基づく人口においても、近年微減していることから、今後も人口減少の傾向がみられます。

平成22年までの年齢3区分別人口推移をみると、15歳未満の年少人口は昭和55年以降継続して減少しており、15歳から64歳までの生産年齢人口も平成7年を境に減少に転じています。一方で65歳以上の老年人口は継続して増加しており、今後さらに増加する見込みとなっています。

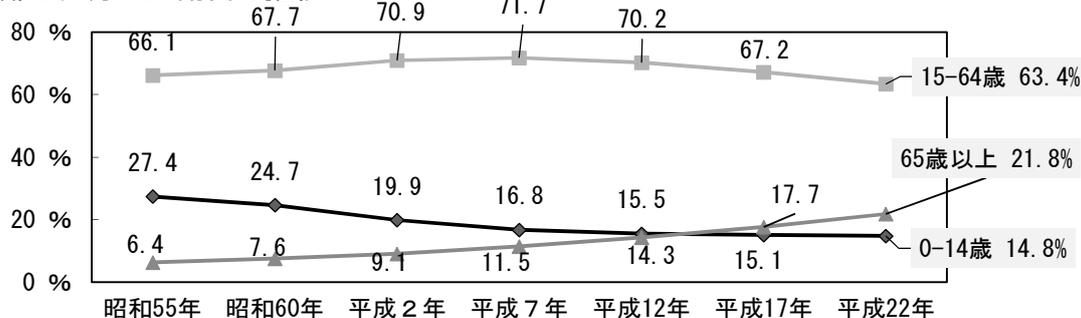
●総人口の推移



●年齢3区分人口の推移



●年齢3区分人口割合の推移



資料：総人口の推移 国勢調査(平成27年は速報値)
年齢3区分人口の推移 年齢3区分の人口割合

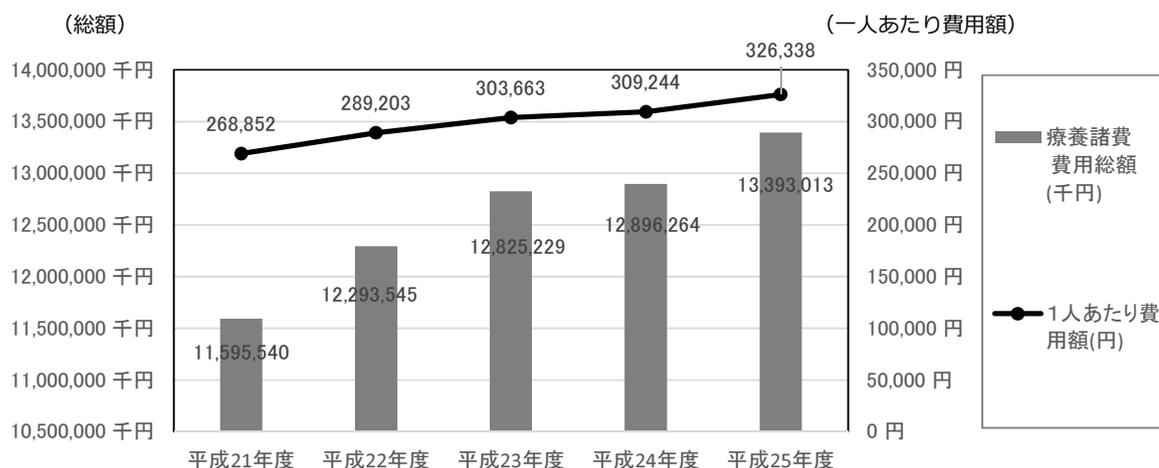
② 全国的な医療費の推移（運動による健康づくりが求められている社会的な背景）

全国の医療費の動向についてみると、平成22年度の国民医療費は37兆4202億円と、前年度の36兆67億円と比べ1兆4135億円（3.9%）増加しています。また、国民医療費の国内総生産(GDP)に対する比率は7.81%（前年度7.60%）、国民所得に対する比率は10.71%（前年度10.51%）に増加し、全国的に医療費が年々増加しています。

本市においても、同様に平成25年度の国民健康保険の費用額が133億9,300万円あまりと、前年度の128億9,626万円と比べ4億9,675万円増加しており、市の高齢化率とともに医療費が年々増加しています。

また、一人あたりの費用額も平成25年度は326,338円と、平成24年度の309,244円に比べ、17,094円増加しており、年々増加していることがわかります。

● 国民健康保険の費用額

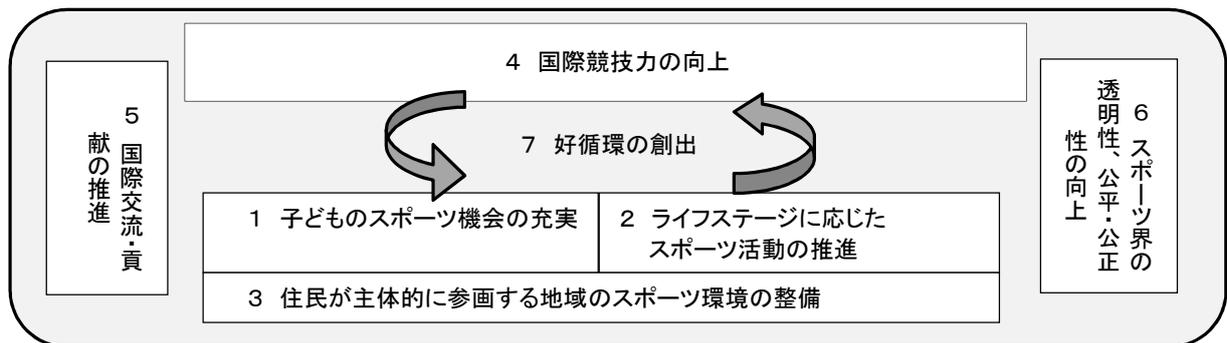


資料：医療保険課

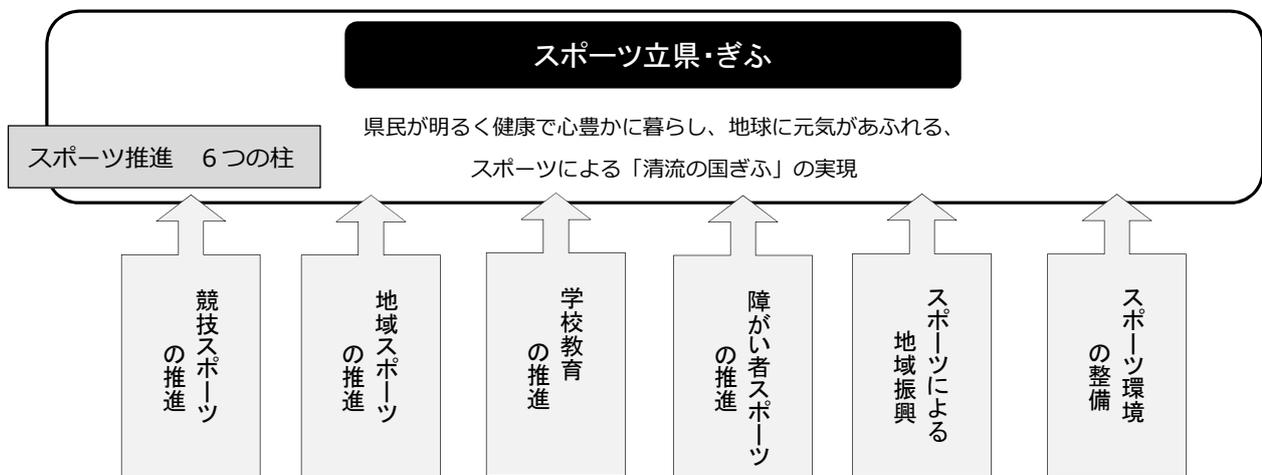
第2節 各務原市のスポーツ活動に関する現状と課題

ここでは、本市のスポーツに関する現状をテーマ別に分け、関連するアンケート調査結果を記し、現状を把握すると同時に本市のスポーツを取り巻く現状と課題についてまとめています。本計画では、テーマ・目的別に、スポーツに関する課題を7項目に分け、以下に記しています。7項目の設定については、国の「スポーツ基本計画」および、岐阜県の「清流の国ぎふスポーツ推進計画」を参酌しています。

国：スポーツ基本計画



岐阜県：清流の国ぎふスポーツ推進計画



各務原市：スポーツに関する課題

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ① 大人のするスポーツについて | ⑤ 支えるスポーツについて |
| ② 子どものするスポーツについて | ⑥ スポーツ施設利用や整備について |
| ③ 高齢者や障がい者のスポーツについて | ⑦ 競技スポーツについて |
| ④ スポーツイベントやスポーツ教室について | |

①大人のするスポーツに関する現状と課題

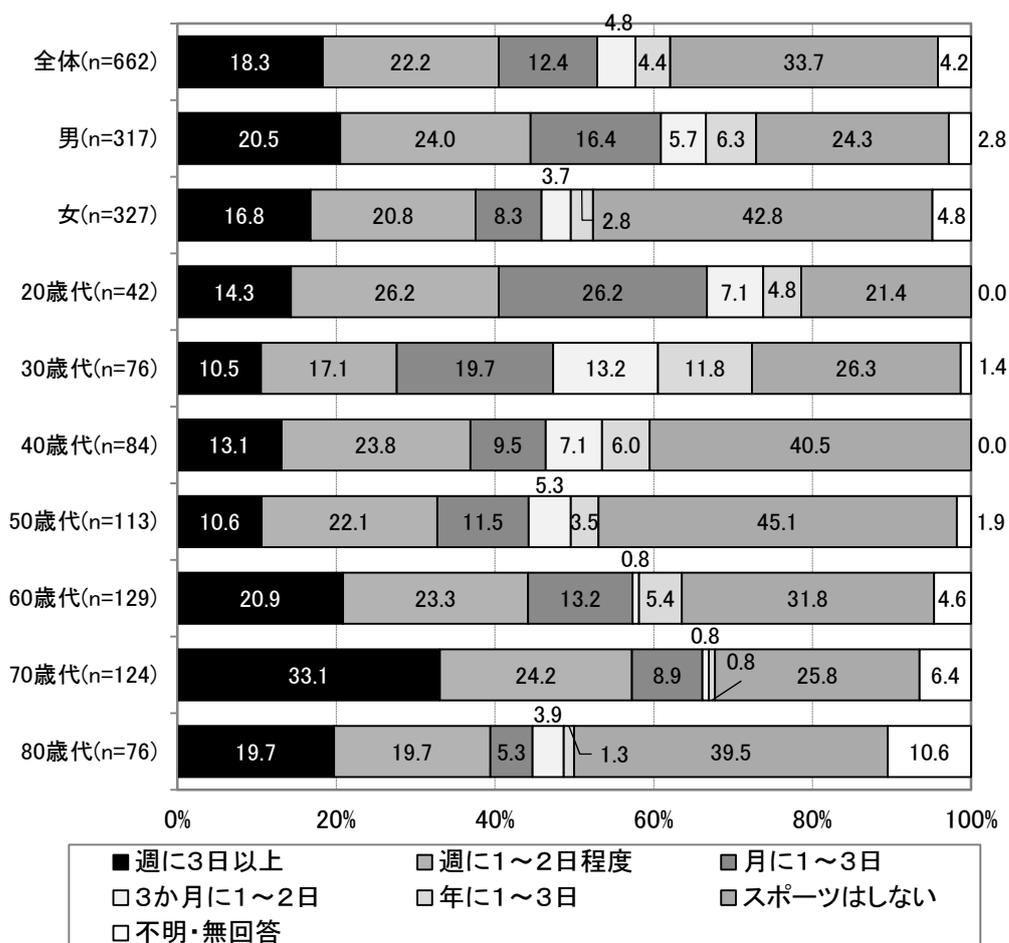
1) スポーツ実施率について

平成 27 年度に実施したスポーツ推進に関するアンケート結果をみると、週 3 日以上運動をしている人の割合が 18.3%、週 1 日以上運動をしている人の割合が 22.2%となっており、合わせて 40.5%の市民が日常的にスポーツを行っています。週 1 回以上運動している 20 歳以上の人の割合を「スポーツ実施率」と言い、その割合は性別にみると、男性で 44.5%、女性の 37.6%となっています。

年齢別にみると、60 歳以上の年齢層でスポーツ実施率が高く、30 代から 50 代でこの割合が低くなっています。

※グラフ中の「n=数値」は、アンケート回答者数を表しています。

●問：本市でのスポーツ実施率について

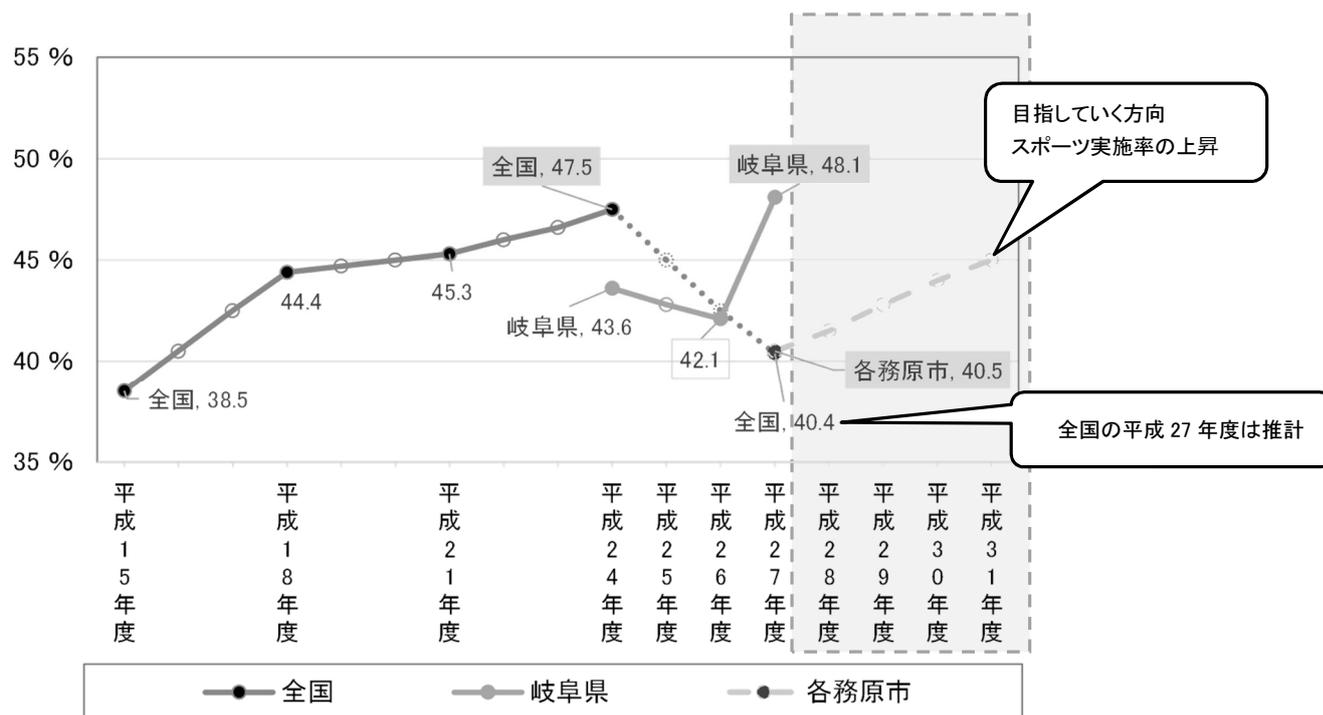


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

2) スポーツ実施状況の国や県との比較について

国や岐阜県との数値比較をみると、スポーツ実施率は、国の47.5%（体力・スポーツに関する世論調査 平成24年）や、岐阜県の48.1%（岐阜県 平成27年 運動・スポーツに関するアンケート調査）と比べ、本市の40.5%は低い割合であることがわかります。一方で、平成27年度における全国のスポーツ実施率は推計で40.4%と、平成24年度と比べおよそ7ポイント低下する見込みとなっています。

●スポーツ実施率の比較

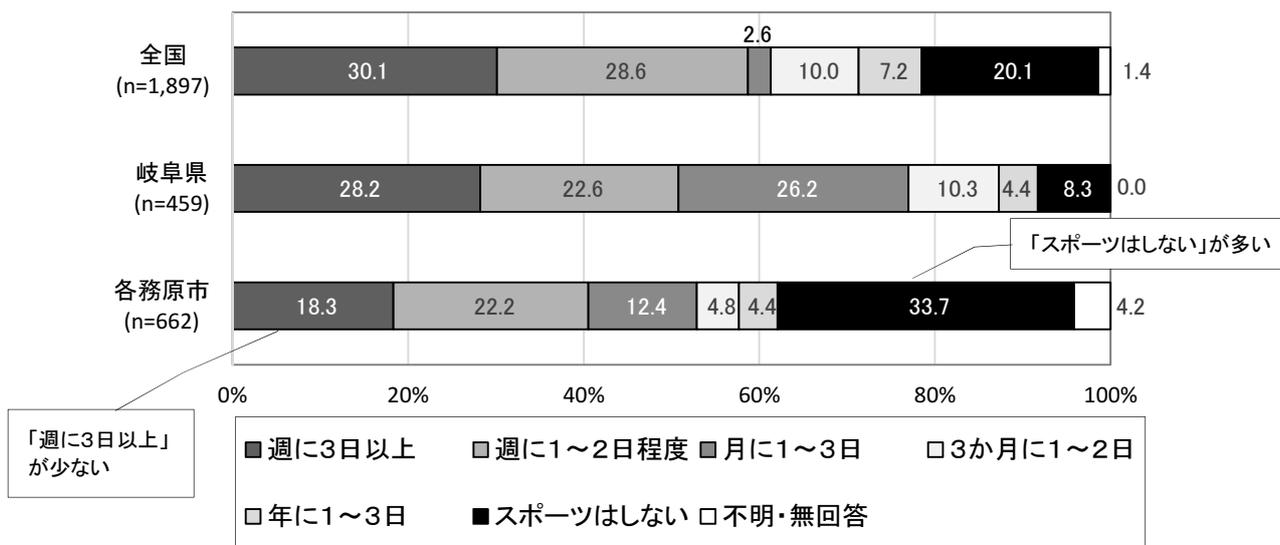


資料：全国 平成24年 体力・スポーツに関する世論調査
 平成27年 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査
 岐阜県 運動・スポーツに関するアンケート調査
 各務原市 平成27年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）
 平成27年度以降は推計

3) スポーツしない人の比較について

本市のスポーツ実施頻度を国や岐阜県と比較すると、「スポーツはしない」と答えた割合が高くなっています。また、スポーツする人の実施頻度については、「週に3日以上運動する」割合が国や岐阜県と比べ特に少なく、「スポーツはしない」と答えた割合が多くなっています。

●統計：スポーツする頻度 全国や岐阜県との比較

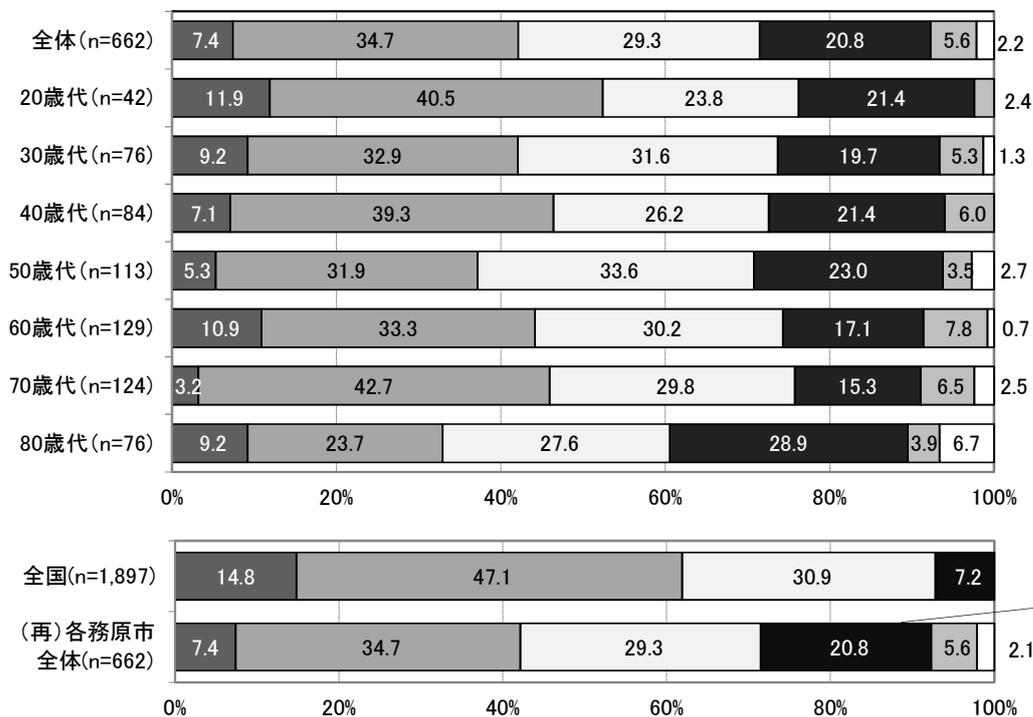


資料：全国 平成 24 年 体力・スポーツに関する世論調査
 岐阜県 運動・スポーツに関するアンケート調査
 各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

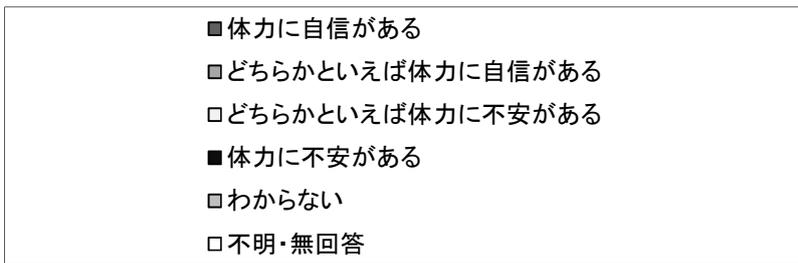
4) 体力と運動不足についての意識

市民の体力についての意識をみると、国と比べ本市では「体力に自信がある」「どちらかといえば体力に自信がある」と答えた人の割合が非常に低くなっています。（→P 10 ●問：体力についてどのように感じていますか）また、運動不足の意識については、国の値と同水準であることから、普段の運動習慣が全国平均と比べ、少ない一方で、運動不足を課題と認識している人が少ないことがうかがわれます。このことから、運動の効果や必要性の周知が必要になると言えます。（→P 10 ●問：普段、運動不足を感じますか）

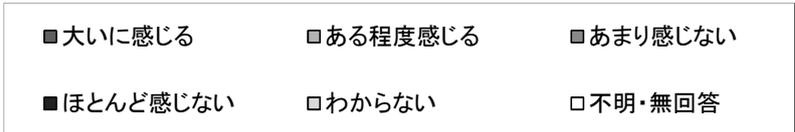
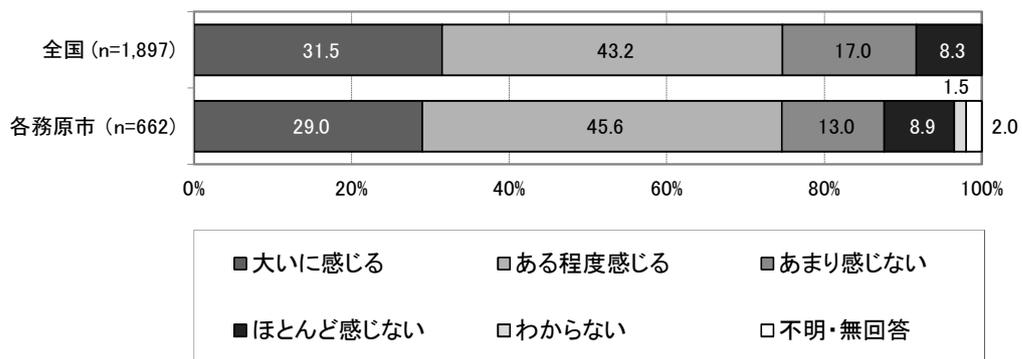
●問：体力についてどのように感じていますか。



「体力に不安がある」割合が高い



●問：普段、運動不足を感じますか。



資料：全国 平成 24 年 体力・スポーツに関する世論調査
各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

大人のするスポーツに関する現状と課題 まとめ

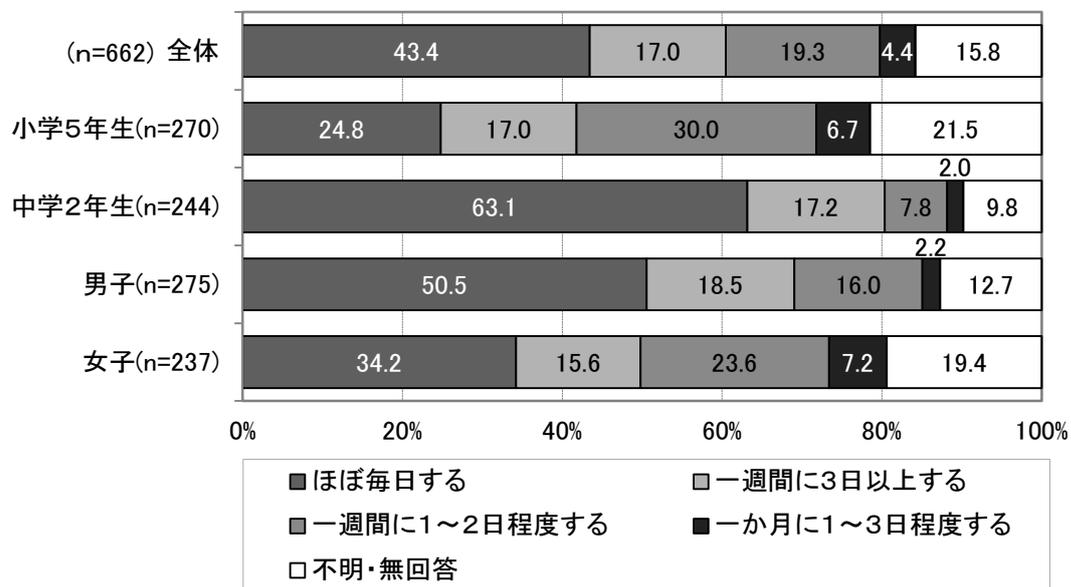
1. 本市では、国や岐阜県と比べ、スポーツをしない人の割合が高くなっており、情報周知や啓発活動の推進等に努め、市民のスポーツ参加を促すことが必要となっています。このため、普段、体を動かすことが少ない人でも気軽に参加できる運動・スポーツ機会が必要です。特に40歳、50歳代の「働き盛り」世代において多くみられる、スポーツ習慣が「まったくない」割合を減らしていく必要があります。
2. 30歳代から50歳代の年代の、スポーツの頻度を上げるための機会創出や環境づくりが求められています。
3. ウォーキングなども身近なスポーツとして認識されるよう、運動の大切さについての情報を広くわかりやすく周知を行うとともに、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境づくりを進める必要があります。
4. 「体力に不安がある」割合が全国値と比べ高いことから、運動・スポーツでの健康づくり啓発と、スポーツがもたらす健康維持に有用と考えられる情報を幅広く発信し、健康づくりのためのスポーツ習慣を根付かせる必要があります。

②子どものするスポーツに関する現状と課題

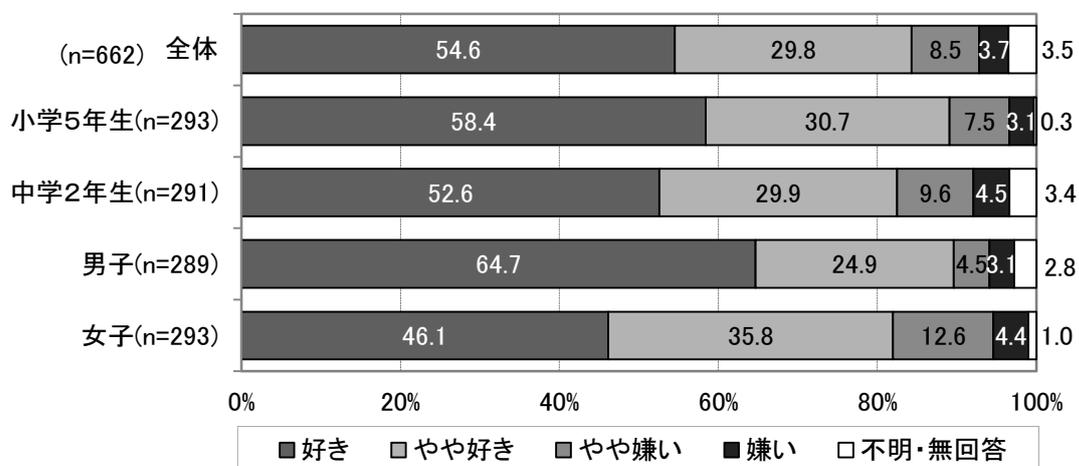
1) 子どものスポーツ実施頻度について

スポーツをする頻度については、中学生の「ほぼ毎日する」割合が小学生と比べて多くなっており、男女別では男子が「ほぼ毎日する」割合が5割以上、女子では3割以上となっています。（→●問：日頃の程度スポーツをしますか 参照）スポーツへの好感度については、「やや嫌い、嫌い」の割合が、小学生よりも中学生に多く、男子よりも女子が多くなっています。（→●問：スポーツすることが好きですか 参照）

●問：日頃の程度スポーツをしますか



●問：スポーツすることが好きですか

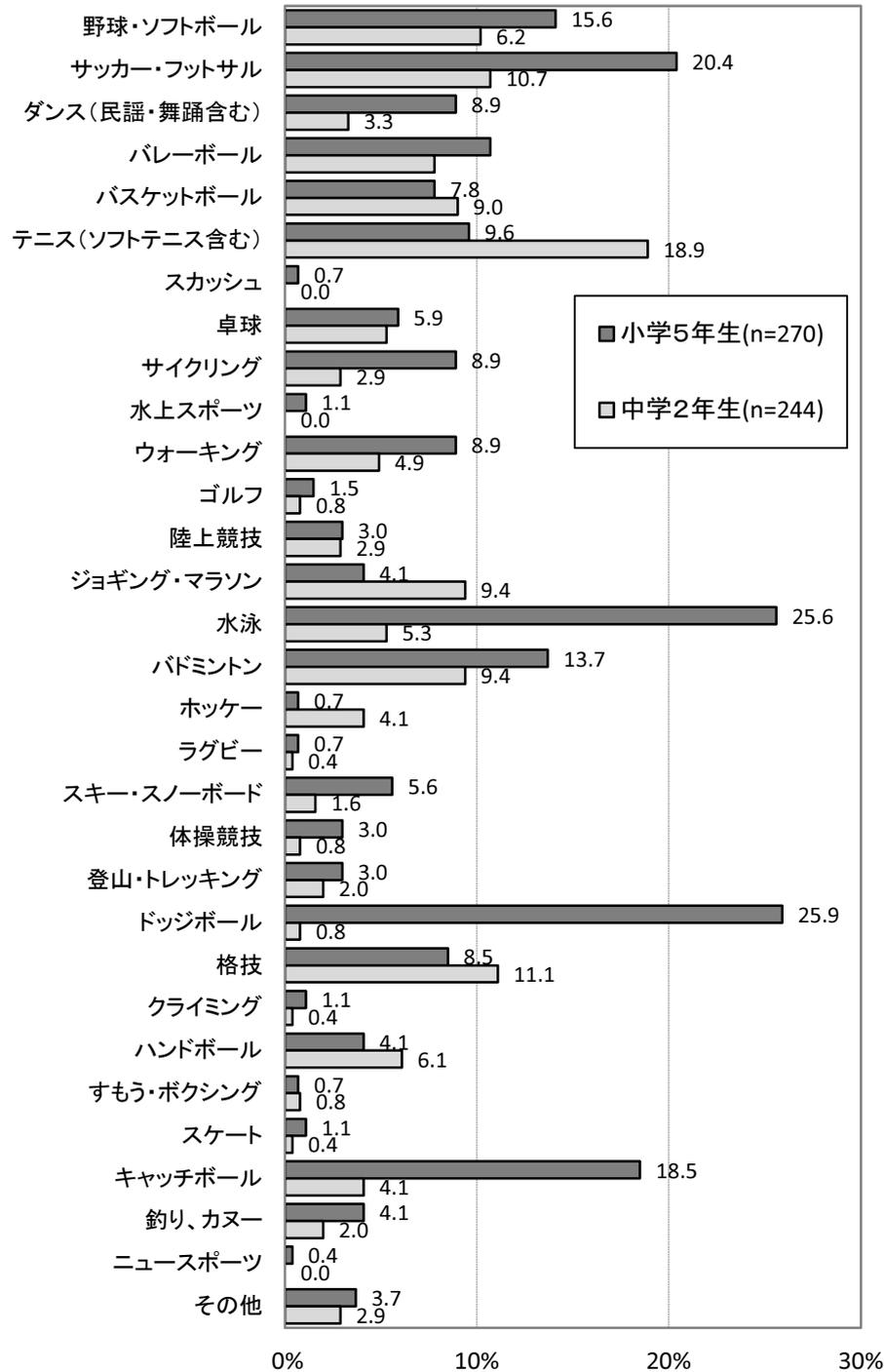


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（小中学生向け）

2) 種目について

平成 27 年に実施した小学 5 年生と中学 2 年生を対象としたスポーツ推進に関するアンケートをみると、日頃行っているスポーツ種目は、小学生で「ドッジボール」や「水泳」が多く、中学生で「テニス」が多くなっています。中学生になると、競技の選択肢が増えるため、取り組む種目が分散していることがうかがえます。

●問：日頃行っているスポーツ種目について

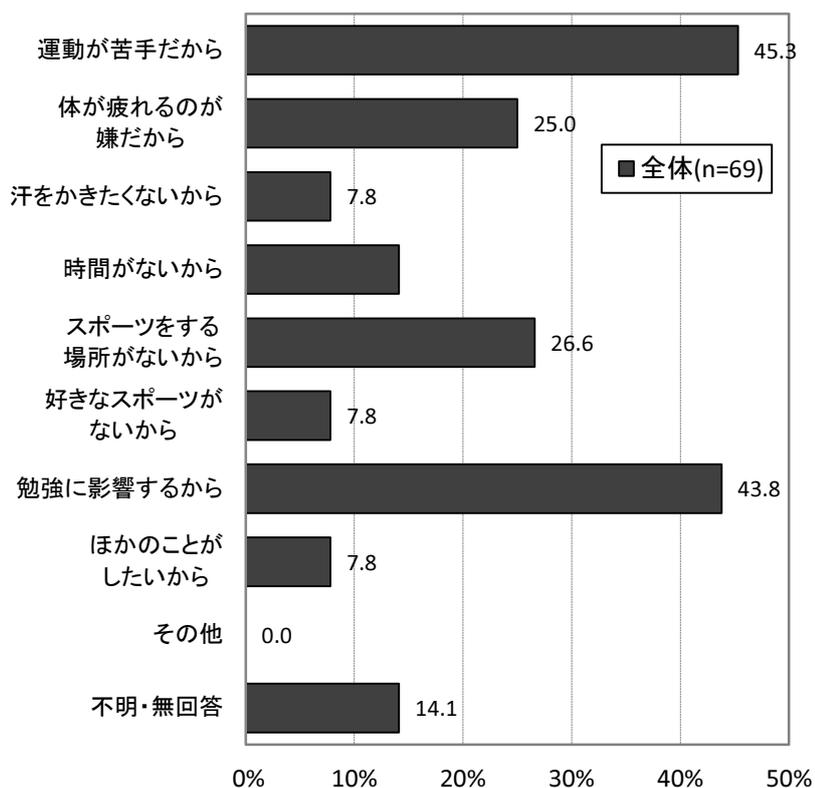


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果 (小中学生向け)

3) スポーツをしない理由

「スポーツをしない」と答えた 69 人に理由を聞いたところ、「運動が苦手だから」が最も多く、次いで「勉強に影響するから」となっています。

●問：スポーツをしない理由



各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果 (小中学生向け)

4) 子どもの体力・運動能力について

平成26年度に実施した小中学生の体力テストの結果をみると、本市では、小学生、中学生ともに、立ち幅跳びで国や岐阜県の平均値を上回っています。一方、長座体前屈は、中学生男子を除き、国や岐阜県の平均値を下回る結果となっています。

	・国・県をともに上回る
	・国・県をともに下回る

●平成26年 体力テストの結果の比較

小学5年生男子	【各務原市】	【岐阜県】	【全国】
握力(kg)	16.44	16.25	16.55
上体起こし(回)	19.69	19.41	19.56
長座体前屈(cm)	31.09	32.51	32.87
反復横とび(点)	40.90	42.06	41.61
20mシャトルラン(回)	49.46	50.88	51.67
50m走(秒)	9.41	9.34	9.38
立ち幅とび(cm)	152.05	151.61	151.71
ソフトボール投げ(m)	22.69	23.37	22.89

小学5年生女子	【各務原市】	【岐阜県】	【全国】
握力(kg)	16.20	15.74	16.09
上体起こし(回)	19.51	18.10	18.26
長座体前屈(cm)	35.48	36.86	37.22
反復横とび(点)	38.85	39.84	39.37
20mシャトルラン(回)	40.87	38.94	40.30
50m走(秒)	9.56	9.62	9.63
立ち幅とび(cm)	146.63	144.81	144.79
ソフトボール投げ(m)	14.74	14.53	13.89

中学2年生男子	【各務原市】	【岐阜県】	【全国】
握力(kg)	29.75	29.05	29.00
上体起こし(回)	27.25	27.40	27.36
長座体前屈(cm)	48.39	44.47	42.87
反復横とび(点)	52.06	52.53	51.31
50m走(秒)	7.99	7.93	8.03
立ち幅とび(cm)	200.05	195.42	193.44
ハンドボール投げ(m)	22.16	21.31	20.81

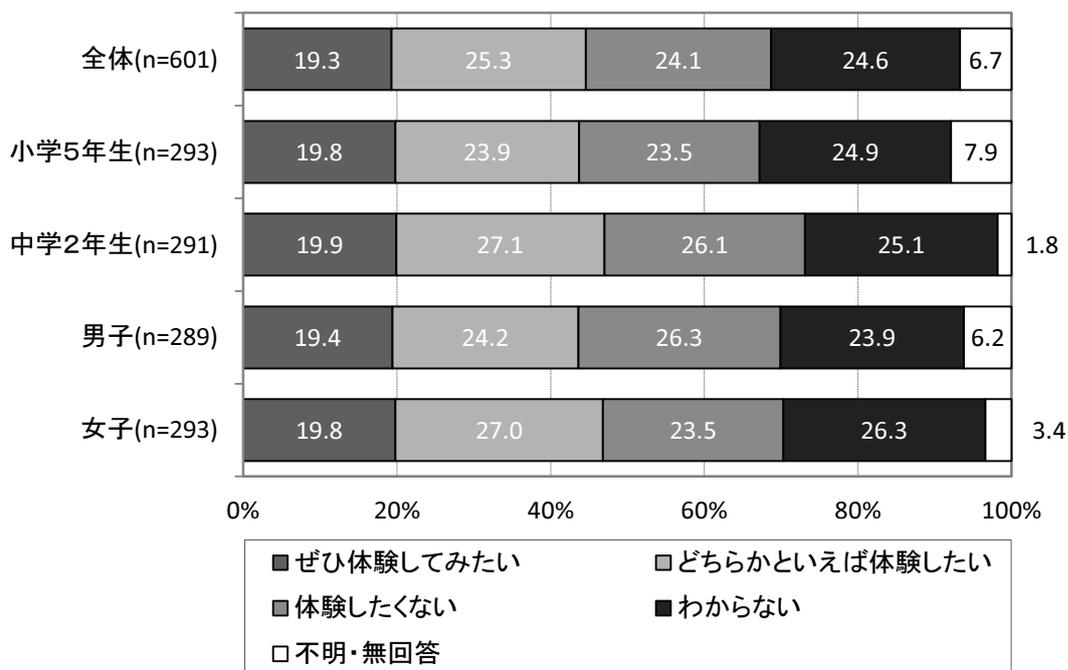
中学2年生女子	【各務原市】	【岐阜県】	【全国】
握力(kg)	24.35	23.84	23.68
上体起こし(回)	23.45	22.81	22.99
長座体前屈(cm)	45.10	46.07	45.25
反復横とび(点)	46.51	46.09	45.64
50m走(秒)	8.75	8.80	8.87
立ち幅とび(cm)	169.81	167.47	166.47
ハンドボール投げ(m)	13.76	13.37	12.81

資料：全国 平成 26 年度 全国体力・運動習慣等調査

5) 各務原ならではのスポーツ機会創出について

本市では、ホッケー競技が盛んであり、オリンピックなどの国際的な大会に選手やコーチを派遣しています。トップレベルの選手や指導者からホッケー指導を受けられる体験への参加意向については、「ぜひ体験してみたい」「どちらかといえば体験したい」が5割弱となっており、本市ならではのスポーツ機会の創出を検討する必要があります。

- 問 もし、日本代表の選手やコーチに、ホッケーを教えてもらえる機会があったら、体験してみたいと思いますか

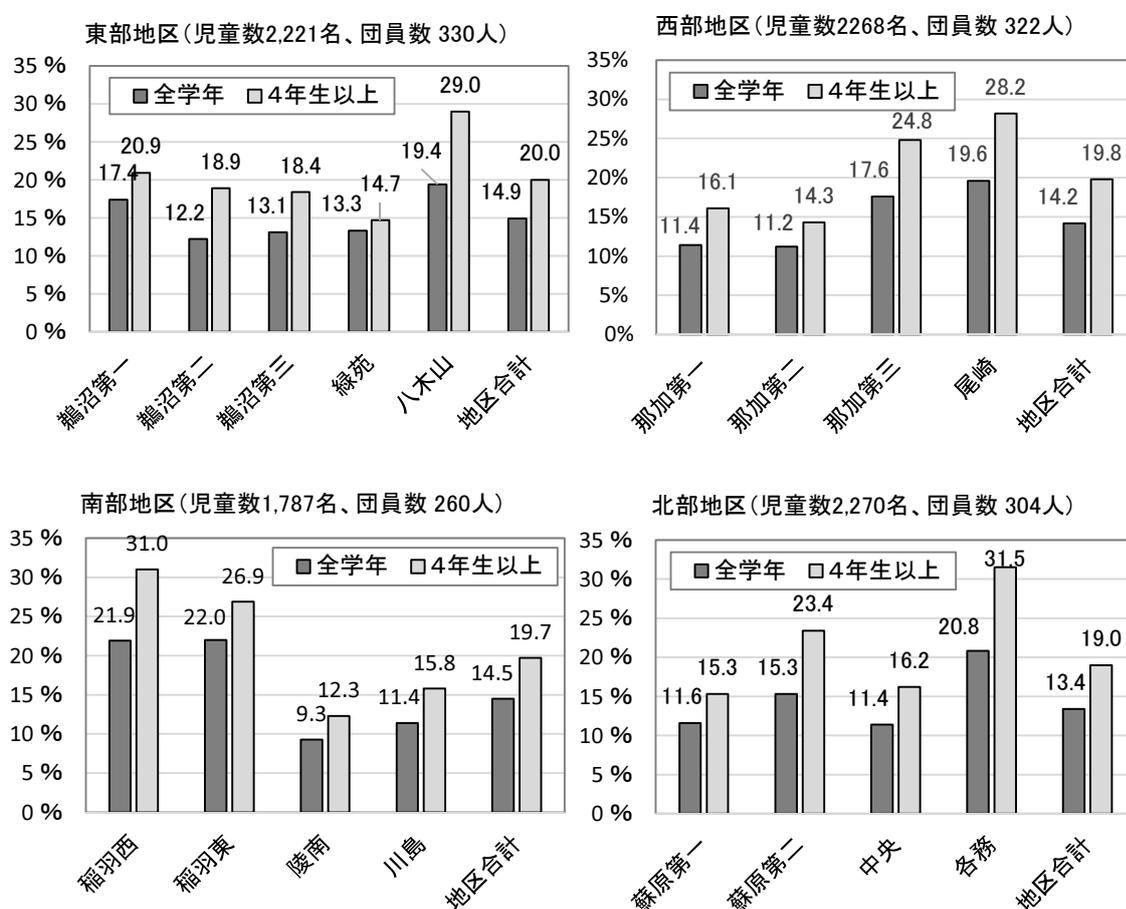


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果 (小中学生向け)

6) スポーツ少年団の状況

スポーツ少年団は、青少年（主に小学生）のスポーツ振興に寄与し、心身の健全な育成を図っています。本市には46の単位団があり、加入率は市全体で14.9%（平成26年度）、4年生以上の加入率は20.7%となっています。加入率のピークは昭和63年の25.8%で、平成7年に20%を下回って以降10%台で推移しており、団員数と加入率の向上に向けて、活動しやすいシステムづくり、委員会・地区連のあり方などを検討しつつ活動の推進を図っています。全国平均の加入率は、小学生で10.2%（平成25年）となっており、本市は全国平均と比べ高い水準となっています。

● スポーツ少年団の団員加入状況（小学生のみ）



資料：平成26年度 各務原市スポーツ少年団の歩み

● スポーツ少年団への加入率の推移（全国平均）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
全国平均小学生加入率	11.04%	10.93%	10.64%	10.48%	10.20%

資料：日本体育協会調べ

子どものするスポーツに関する現状と課題 まとめ

1. スポーツする頻度については小学生と比べ、中学生では「ほぼ毎日する」の割合が多く、小学生は帰宅後に学校外でスポーツをし、中学生では主に学校内の部活でスポーツをしている傾向がみられます。
2. スポーツ種目については、学年が上がるにつれ、「ドッジボール」や「キャッチボール」などレクリエーション要素の強い内容から、「テニス」などの競技要素が強い種目に参加が移る傾向があります。また、中学生では種目が分散され、より多様なスポーツに参加するようになります。
3. スポーツをしない理由としては、したいと思っているが、何らかの理由でできない、という割合はわずかであり、「興味がない」「ほかにしたいことがある」などの意識面の理由が多くなっています。
4. スポーツテストの結果では、小学生男子は国や岐阜県の数値と比べ、やや低い記録が多いものの、そのほかの年代においては、概ね国・県の記録を上回っており、今後も体力レベルの向上と保健体育授業の充実に努める必要があります。
5. 本市のトレンドであるホッケー競技において、トップレベルの選手やコーチによる指導機会の充実により、次世代アスリートの育成につながるよう、事業を推進する必要があります
6. スポーツ少年団の加入率は概ね 20%前後となっており、地区別での大きな違いは見られない一方、小学校別にみると加入率にばらつきがみられます。

③ 高齢者や障がい者のスポーツに関する現状と課題

1) 高齢者のスポーツ参加についての実態

高齢者のスポーツについては、各地でウォーキングやグラウンドゴルフなどが行われています。本市のシニアクラブによるスポーツ大会の統計をみると、各スポーツ大会の参加者数は概ね横ばいから微増の傾向を示しています。

● 高齢者スポーツ参加者数

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	チーム数	参加者数	チーム数	参加者数	チーム数	参加者数	チーム数	参加者数
グラウンド ゴルフ		500 人		563 人		532 人		543 人
クロッケー (1チーム5名)	107	535 人	116	580 人	115	575 人	115	575 人
クロリティー (1チーム5名)	102	510 人	99	495 人	93	465 人	98	490 人
ベタンク (1チーム3名)	48	144 人						
合計	257	1,689 人	263	1,782 人	256	1,716 人	261	1,752 人

資料：高齢福祉課

2) 障がい者スポーツについての実態

障がい者のスポーツについては、全国障がい者スポーツ大会に毎年参加しており、知的バレーボール男子をはじめ、様々な種目への参加実績があります。また、岐阜ブロック交流運動会へは、市内のほとんどの施設から毎年 200 人以上の参加実績があります。本市には、パラリンピック出場を狙える国際レベルの選手も在籍しており、現在活躍している選手への支援に努めるとともに、東京大会を見据え、より多くの方にスポーツを楽しんでいただける環境づくりと合わせて、トップレベルの次世代アスリート育成が可能な環境づくりが求められています。

●全国障がい者スポーツ大会参加者数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
陸上競技	4人	1人	—	1人
水泳	1人	—	—	—
卓球	4人	1人	—	1人
車椅子バスケット	2人	—	—	—
ソフトボール	2人	2人	—	2人
グランドソフト	1人	—	—	—
バレーボール	—	4人	—	—
聴覚バレーボール男子	3人	—	—	—
知的バレーボール女子	1人	—	—	—
知的バレーボール男子	—	—	—	5人
精神バレーボール	1人	—	—	—
合計	19人	10人	—	9人

資料：社会福祉課

●岐阜ブロック交流運動会参加者数

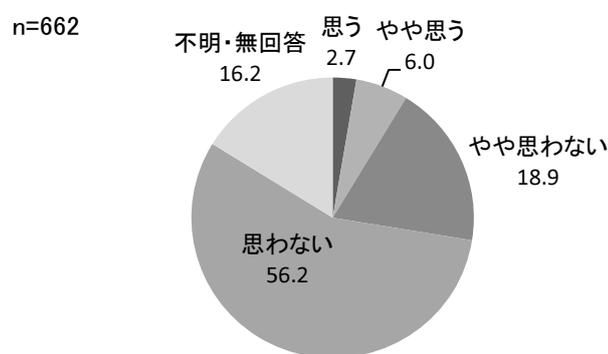
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
岐阜ブロック交流運動会	239人	217人	241人	224人

資料：社会福祉課

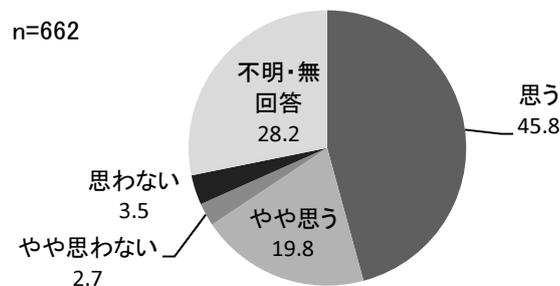
3) スポーツ推進アンケートにおける障がい者スポーツについて

アンケート結果における障がい者のスポーツについての意見では、活動支援の不足を感じている人が多いことがわかります。また、スポーツレベル向上のため、健常者と障がい者の枠を超えたスポーツ指導や交流の促進、および施設整備の充実が求められています。

- 問：あなたは、職場や住んでいる地域で、障がいのある人たちのスポーツ活動が普及していると思いますか



- 問：障がい者スポーツができるための施設整備（バリアフリーなど）や、専用備品などの充実が必要だと思いますか



各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

高齢者や障がい者のスポーツに関する現状と課題 まとめ

1. 高齢者向けのスポーツイベントには、定員を超える参加希望のある種目がある一方、スポーツ団体などの関係者からのアンケート回答において「参加者が固定化している」という声も聞かれます。
より多くの高齢者が、スポーツを生活習慣に取り入れるライフスタイルとなるよう、体を動かすきっかけづくりとそれらの効果的な周知を行う必要があります。
2. 障がい者のスポーツ推進については、パラリンピック出場を見据えたトップアスリーの支援や育成に取り組むとともに、より多くの障がい者がスポーツを楽しめる環境づくりが求められています。
3. 障がい者のスポーツ環境については、スポーツの普及や環境の充実度等において、「十分ではない」と感じている市民が多くなっています。各施設の整備に取り組む際、障がいのある人や高齢者の使い勝手に配慮した環境づくりを図るとともに、市民に分かりやすく周知を行う必要があります。

④ 「スポーツイベントやスポーツ教室」に関する現状と課題

1) 主なスポーツ大会の参加者数

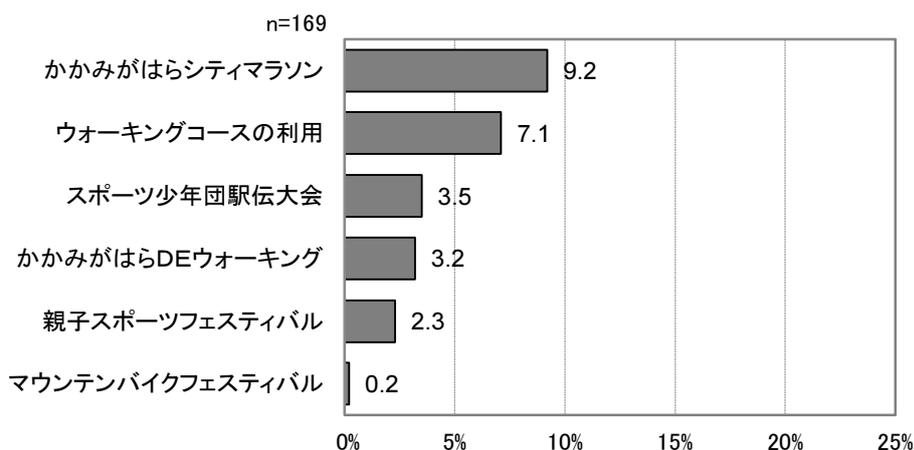
平成 24 年度から 3 か年のスポーツイベント参加者数推移をみると、ほぼすべてのスポーツ大会において参加者数は増加傾向にあります。なお、定員募集のシティマラソンについては、募集期限までに定員上限に達しており、アンケートでは市民の約 1 割に参加経験があることから、マラソン大会への関心が高まっていることがうかがえます。

●主なスポーツ事業の参加者数

イベント・大会名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
スポーツげんき祭	1,415 人	1,803 人	台風中止
かかみがはらDEウォーキング	970 人	1,014 人	1,408 人
市民体育大会	5,375 人	4,612 人	6,174 人
市民水泳大会	120 人	176 人	175 人
かかみがはらシティマラソン	3,258 人	3,439 人	3,546 人
スポーツ交流会	雨天中止	95 人	104 人
軽スポーツ交流会	380 人	406 人	300 人
親子スポーツフェスティバル	2,500 人	2,500 人	中止
駅伝大会	マラソン 1,300 人 駅伝 44 チーム	中止	駅伝のみ 46 チーム

資料：スポーツ課

●問：スポーツイベント、どれに参加したことがありますか（複数回答）



各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

2) スポーツスクール事業の実績

生涯スポーツの振興を図るため、初心者が気軽にスポーツに参加できる各種スポーツスクールを開催しています。近年の実績は次のとおりです。

●スポーツスクール事業実績の推移

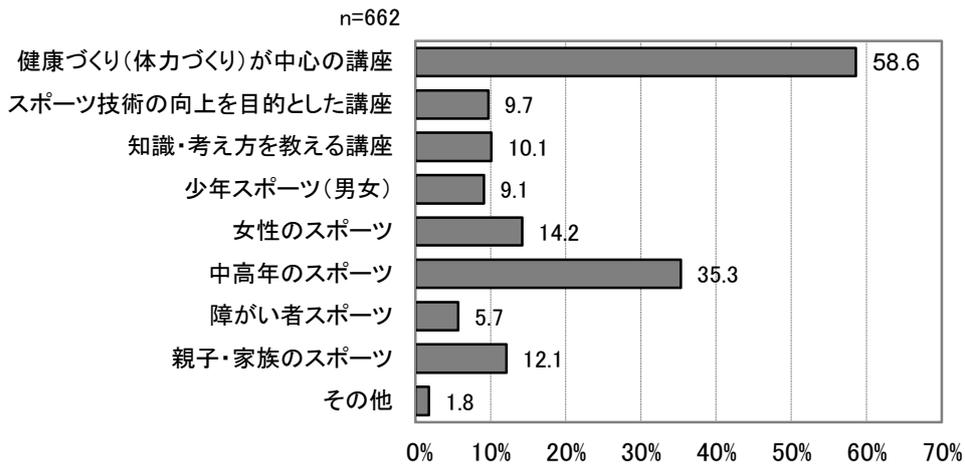
スクール名	平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
みんなでラージボール卓球		平成 26 年より実施			5	17 人	5	15 人
硬式テニス	10	18 人	10	14 人	10	17 人	5	20 人
弓道	10	15 人	10	25 人	10	20 人	10	22 人
バスケットボール	5	14 人	5	16 人	5	15 人	5	30 人
さわやか太極拳(2回開催)	10	15 人	10	23 人	10	29 人	10	24 人
ゴルフ入門	10	11 人	10	16 人	10	11 人	—	—
はじめてのアーチェリー	平成 25 年より実施		8	6 人	4	8 人	5	4 人
初心者からの山登り	5	28 人	—	—	5	25 人	6	32 人
いきいきバドミントン		平成 26 年より実施			10	13 人	5	37 人
スマイルパレーボール		平成 26 年より実施			5	32 人	5	30 人
オーレサッカー		平成 26 年より実施			5	44 人	5	40 人
ラグビーフットボール		平成 26 年より実施			4	4 人	5	22 人
ソフトテニス		平成 26 年より実施			10	28 人	5	19 人
ホッケー(2回開催)	10	35 人	10	31 人	10	35 人	10	68 人
ラージボール卓球	10	9 人	10	13 人	—	—	—	—
ラジオ体操	平成 25 年のみ実施		1	6 人				
楽しい新体操(2回開催)	10	40 人	10	38 人	10	40 人	10	38 人
ヨガ体操(2回開催)	20	41 人	20	44 人	20	45 人	20	43 人
フラダンス(2回開催)	3	20 人	5	19 人	10	37 人	10	31 人
これからハンドボール				平成 27 年より実施			5	19 人
もっと速く陸上競技教室 (基礎編)				平成 27 年より実施			5	28 人

資料：スポーツ課

3) スポーツイベント内容の意識について

市民が希望するスポーツイベントについては、「健康づくり（体カづくり）が中心の講座」が最も多く、次いで「中高年のスポーツ」となっています。競技スポーツよりも、生涯スポーツや健康維持を意識したスポーツイベントへのニーズが高い事がうかがえます。

●問：今後のスポーツ・健康に関する教室や講座は、どのような内容が良いか（複数回答）

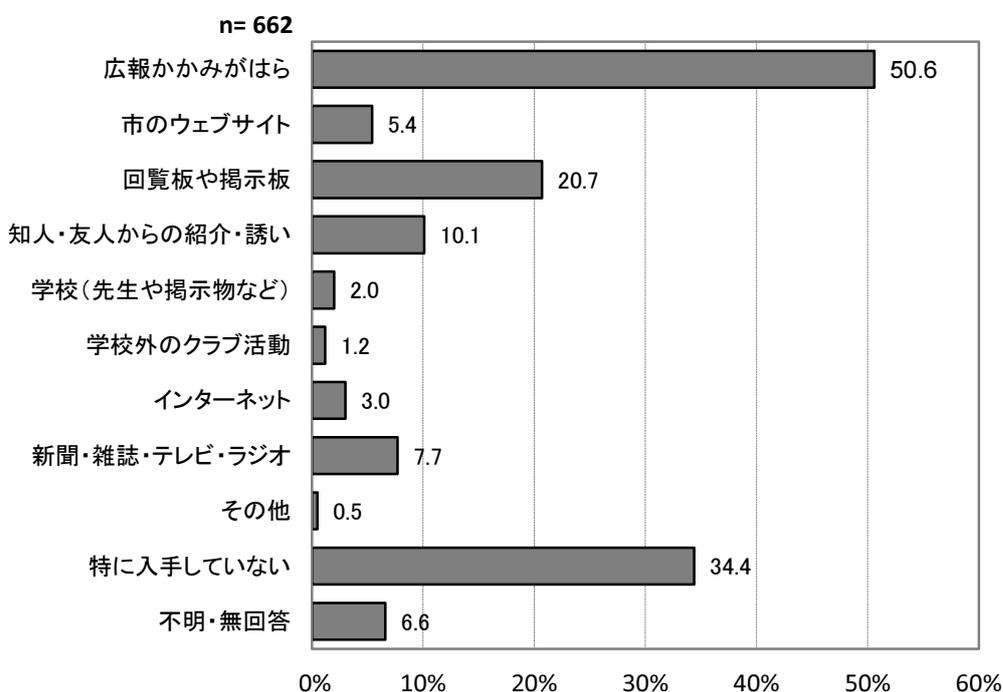


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

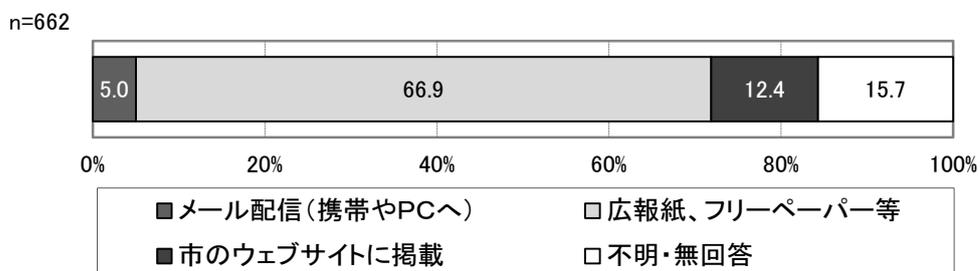
4) スポーツに関する情報の周知について

スポーツ情報の周知と市民の情報収集の現状については「広報かかみがはら」が最も多く、「回覧板や掲示板」が続いています。（参照：●問：あなたは、各務原市のスポーツ情報をどこ（何）で入手していますか）市民が求めるスポーツ情報の周知方法については「広報紙・フリーペーパー等」が66.9%と最も多く、「市のウェブサイトに掲載」が12.4%、「メール配信（携帯やPCへ）」が5.0%となっています。（参照：●問：スポーツ・健康に関する広報や情報提供の方法は何か良いですか）

●問：あなたは、各務原市のスポーツ情報をどこ（何）で入手していますか（複数回答）



●問：スポーツ・健康に関する広報や情報提供の方法は何か良いですか



各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

スポーツイベントやスポーツ教室に関する現状と課題 まとめ

1. 市のスポーツイベント参加者数は概ね増加傾向にあります。また、アンケートでは、市のスポーツイベントに参加したことがある割合が1割以下となっている一方、各種スポーツイベント参加者数は定員上限まで達しているものもあることから、市外からの参加者数が増えていると考えられます。
2. スポーツスクールでは、定員上限に達する教室がある一方、定員割れの教室もみられるため、周知方法や開催時期や種目などの内容を工夫する必要があります。
3. 市民のスポーツイベントに関するアンケートでは、「健康づくり（体力づくり）が中心の講座」や「中高年のスポーツ」と答えた割合が多く、誰もが参加できる生涯スポーツに関するニーズが高く、今後の開催内容について、検討していく必要があります。また、世界を舞台とした日本人選手の活躍の影響を受けて、新しくスポーツに取り組む人も増加しています。
4. 市民が求めるスポーツ情報の周知方法については、広報紙での掲載と答えた割合が最も多くなっており、現状の周知方法を引き続き継続するとともに、よりわかりやすく、効果的な情報の提供について検討する必要があります。

⑤ 「支えるスポーツ」に関する現状と課題

1) 各務原市体育協会の状況

各務原市体育協会は、加盟団体の競技力の向上及び団体相互の交流と親睦を図るとともに、市民の健全な心身の成長のため、スポーツの普及・振興の中心的な役割を担っており、会員数は1万4千人前後で推移しています。

● 体育協会会員数の推移

網掛けは前年度比から大きく増減した時点

No	競技名	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
1	陸上競技	365 人	365 人	380 人	380 人	515 人
2	軟式野球	3,081 人	2,942 人	2,927 人	2,904 人	2,949 人
3	バレーボール	1,743 人	1,743 人	1,743 人	1,281 人	1,140 人
4	剣道	409 人	409 人	518 人	411 人	411 人
5	柔道	119 人	106 人	86 人	100 人	39 人
6	ソフトボール	957 人				
7	相撲	15 人	15 人	15 人	15 人	18 人
8	ソフトテニス	736 人	736 人	736 人	857 人	780 人
9	水泳	397 人	331 人	307 人	249 人	253 人
10	卓球	380 人	390 人	310 人	435 人	435 人
11	バスケットボール	547 人	547 人	547 人	543 人	591 人
12	ラグビー	145 人	103 人	119 人	108 人	116 人
13	クレー射撃	46 人	40 人	34 人	31 人	29 人
14	バドミントン	353 人	501 人	466 人	481 人	434 人
15	弓道	109 人	106 人	103 人	109 人	113 人
16	スキー	60 人	60 人	45 人	45 人	45 人
17	サッカー	1,158 人	1,158 人	1,492 人	1,463 人	1,580 人
18	テニス	739 人	735 人	1,084 人	974 人	899 人
19	銃剣道	40 人	40 人	74 人	49 人	49 人
20	ホッケー	501 人	502 人	501 人	502 人	502 人
21	アーチェリー	34 人	35 人	40 人	109 人	40 人
22	空手道	346 人	357 人	332 人	361 人	361 人
23	少林寺拳法	144 人	128 人	120 人	108 人	180 人
24	ゲートボール	128 人	128 人	65 人	70 人	57 人
25	ハンドボール	311 人	310 人	315 人	255 人	255 人
26	合気道	120 人	120 人	120 人	102 人	93 人
27	山岳	100 人	106 人	101 人	101 人	95 人
28	グラウンド・ゴルフ	531 人	510 人	510 人	565 人	565 人
29	太極拳	301 人	274 人	294 人	294 人	293 人
30	グラライダー	183 人	183 人	85 人	222 人	222 人
31	ターゲット・バードゴルフ	-	-	-	-	41 人
	会員数合計	14,098 人	13,937 人	14,426 人	14,081 人	14,057 人

資料：スポーツ課

2) スポーツ推進委員

本市では各小学校区に2名ずつ、合計34名のスポーツ推進委員が活動しており、市民が健康で豊かな生活ができるように、地域における様々なスポーツ活動を通じて、体力向上及び健康増進に寄与しています。

活動例として、軽スポーツの普及指導を重点目的とした「出前講座V i v a 軽スポーツ」や「軽スポーツ交流会」の開催をはじめ、「スポーツげんき祭」「かかみがはらDEウォーキング」などの運営協力を行っています。(参照：●平成26年度 軽スポーツ交流会 参加者実績) また、地域スポーツ振興事業の企画・運営を行うとともに、年2回発行の「Theスポ推だより」の発行によるスポーツ普及活動を行っています。スポーツ推進委員の認知度をみると、「知らない」が67.2%と、約7割に上っており、知名度の向上と活動への参加促進が課題となっています。(参照：●問：スポーツ推進員を知っていますか)

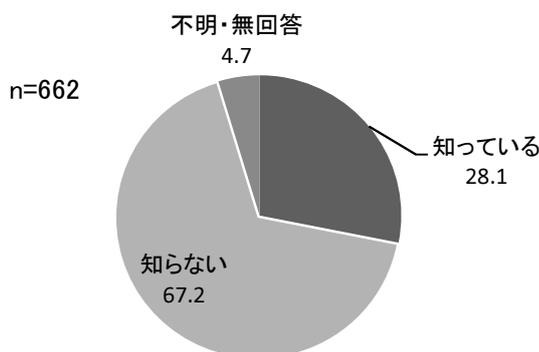
●平成26年度 軽スポーツ交流会 参加者実績

開催期日	6月7日	7月5日	8月2日	9月6日	11月15日	2月7日	合計
会場	川島中学校	中央中学校	那加中学校	緑陽中学校	総合体育館	総合体育館	
一般参加者	48人	48人	48人	60人	48人	48人	300人
定員充足率	88.8%	88.8%	88.8%	111.1%	88.8%	88.8%	92.5%

※交流会1回あたりの定員は54人

資料：スポーツ課

●問：スポーツ推進員を知っていますか



各務原市 平成27年 スポーツ推進に関するアンケート結果 (一般向け)

3) スポーツ指導者育成について

スポーツ指導者の育成と知識向上のためスポーツ指導者講習会を開催しています。平成 27 年度は体育協会から講習会を開始したことにより 10 月時点で 271 名の講座参加者があり、平成 25、26 年度と比べ増加しています。市民が健康で豊かな生活ができるように、地域における様々なスポーツ活動の運営やサポートの中心的担い手として、運動の普及及び健康増進に寄与しています。（参照：●スポーツ指導者講習会 参加者実績）

また、市民がスポーツをする際、指導者の有無については「いる」が 18.4%、そのほかは「いない」となっています。「いない」と答えた人のうち、「いない、いると嬉しい」「いない、知る方法がない」と答えた人が合わせて 44.1%と、潜在的には指導者が欲しいと思っている状況であることが分かります。（参照：●問：運動やスポーツをする際、指導してくれる人はいますか）

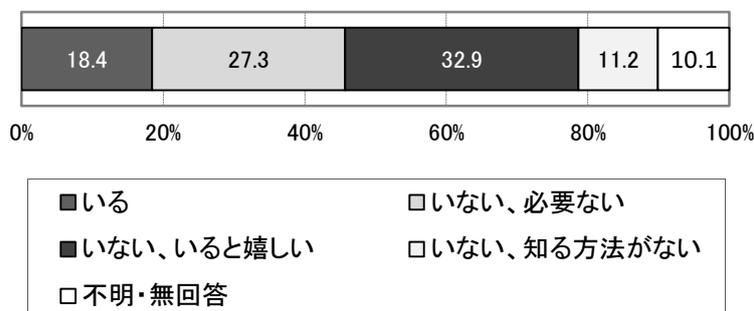
●スポーツ指導者講習会 参加者実績

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
コーディネーショントレーニング指導者講習会	73 人	75 人	72 人
スポーツ少年団 指導者認定員講習会	147 人	120 人	123 人
体育協会 中学校部活動指導者講習会	—	—	76 人
合計	220 人	195 人	271 人

資料：スポーツ課

●問：運動やスポーツをする際、指導してくれる人はいますか

n=662

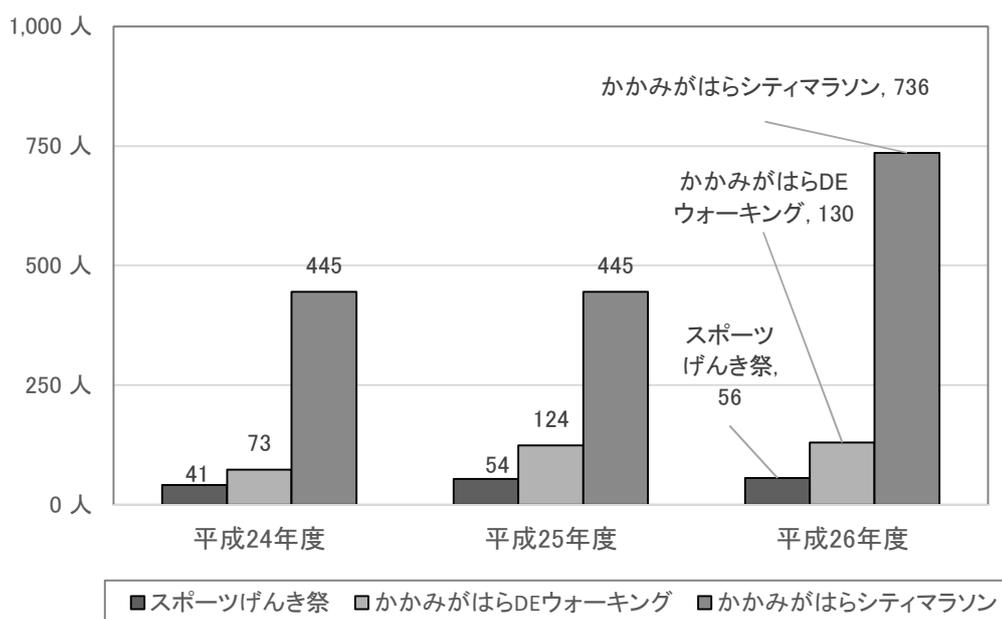


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

4) スポーツボランティアの参加数推移

スポーツボランティアの主なスポーツイベントへの参加者数をみると、「スポーツげんき祭」「かかみがはら DE ウォーキング」は微増で推移している一方、「かかみがはらシティマラソン」では平成 26 年度に 736 人と、前年度の 445 人と比べ、大幅な増加となっています。

●スポーツボランティアの参加状況



資料：スポーツ課

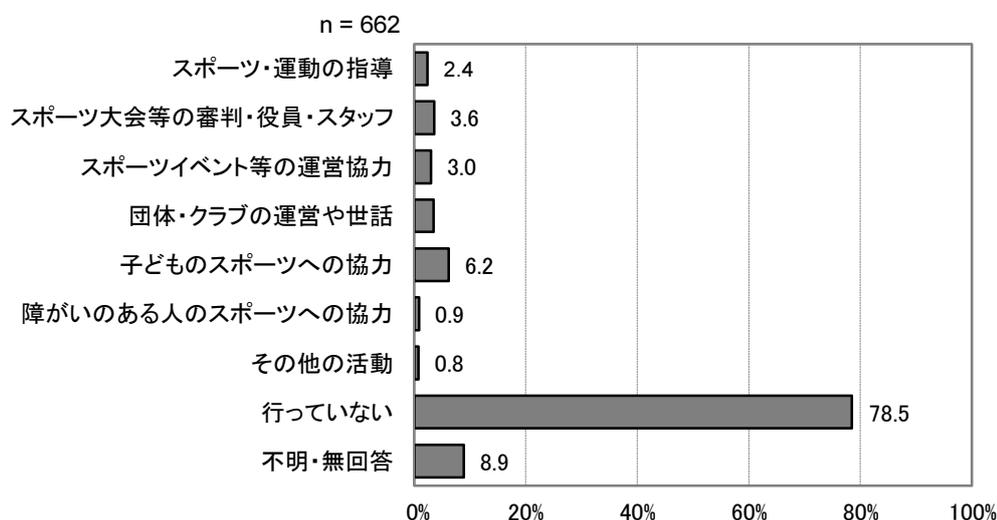
5) スポーツボランティアの参加状況

スポーツボランティア活動については、78.5%が「行っていない」と答えています。（参照：●問：1年間以内にスポーツ・運動に関するボランティア活動を行いましたか）一方で、ボランティア活動を通じて「出会い・交流の場」があることや、自分の好きなスポーツの普及ができるなどの要素があれば、参加したいと考えている割合が高いことがうかがえます。

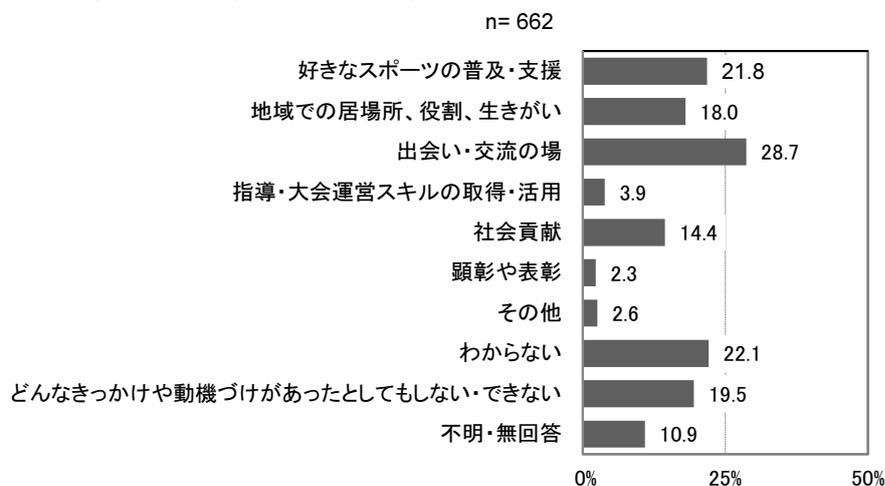
今後は主催者などがボランティアを募集する際、参加者の希望に近い活動内容の検討とその活動内容が伝わる周知や募集を行えば、より多くの参加者を得られる可能性があります。

（参照：●問：どんなきっかけや動機づけ（モチベーション）があれば、スポーツに関するボランティア活動を行ったり、続けたりするきっかけになるとおもいますか）

●問：1年間以内にスポーツ・運動に関するボランティア活動を行いましたか（複数回答）



●問：どんなきっかけや動機づけ（モチベーション）があれば、スポーツに関するボランティア活動を行ったり、続けたりするきっかけになるとおもいますか（複数回答）



6) 総合型地域スポーツクラブの状況

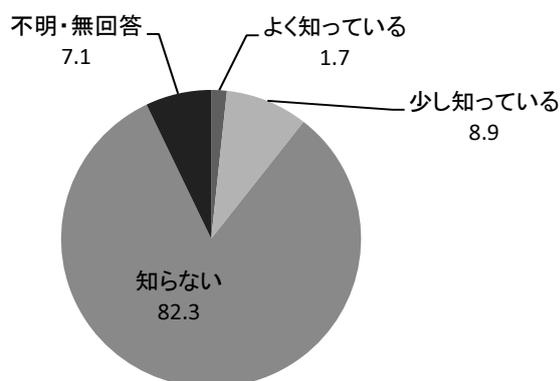
市内には、「桜ファミリークラブ」と「かかみのスポーツクラブ」の2つの総合型地域スポーツクラブがあり、平成23年2月の設立以来、地域の活力向上と健康増進のためのスポーツイベントなどの企画・運営を行っています。(参照：●総合型地域スポーツクラブ概要)
一方で、アンケートでの認知度をみると「知らない」が82.3%となっており、知名度の向上が課題となっています。(参照：●問：「総合型地域スポーツクラブ」のを知っていますか)

●総合型地域スポーツクラブ概要

	桜ファミリークラブ	かかみのスポーツクラブ
会員数	288人(平成27年7月現在)	210人(平成27年7月現在)
指導者	13人	8人
入会金	無料/参加費一回300円 (会員は100円、サッカー会員は200円)	—
年会費	ファミリー:1,500円 小・中学生500円、高校生・一般800円	家族会員:1,200円 個人会員:600円
活動種目	バスケットボール、バドミントン、卓球、 ソフトバレー、カローリング、サッカー、 ソフトテニス	カローリング、卓球、グラウンドゴルフ、ドッジビー、キンボール、ペタンク、 タグラグビー、大縄跳び、 スポーツガラッキー、公式輪投げ、 バドミントン、ソフトバレーボールなど
主な活動場所	総合体育館メインアリーナ 那加中学校グラウンド、 川島中学校グラウンド	桜体育館、蘇原中学校、那加第三小学校、 各務原グリーンスタジアム、 スポーツ広場
活動日数	年間50日	5日/週(月・火・木・金・土)

資料：スポーツ課

●問：「総合型地域スポーツクラブ」を知っていますか。



各務原市 平成27年 スポーツ推進に関するアンケート結果(一般向け)

「支えるスポーツ」に関する現状と課題 まとめ

1. 本市の体育協会は、本市のスポーツ団体の中心的存在として組織強化を行い、異種目との交流や連携を図るとともに、スポーツ振興のための各種事業、取り組みの充実を図っていくことが必要となっています。
2. 地域でのスポーツ振興のさらなる強化のため、スポーツ推進委員の認知度向上と、軽スポーツ大会への定員充足率上昇のための支援等が必要となっています。
3. スポーツ指導者が抱えている問題点については、指導者の増加と能力向上のため、「スポーツ指導者養成研修」への参加を呼びかけるとともに、研修自体の内容の充実を図っていくことが必要となっています。また、優れたスポーツ指導者の団体や種目の枠を超え、派遣できるような仕組みをつくり、スポーツ指導者資格保有者の活動機会を増やしていくとともに、質の高い指導機会の提供につなげていくことが必要となっています。
4. シティマラソンでのボランティア参加者数が大幅に増加するなどスポーツボランティアの参加者数は増加傾向にあります。今後のスポーツ振興のため、ボランティアとの協力体制を築いていくことが必要となっています。
5. ボランティア参加への誘因やモチベーションについては、「出会い・交流の場」や「好きなスポーツの普及・支援」につながることで実感できる活動内容の検討と、効果的な周知や募集を行えば、参加者が増える可能性があります。
6. 総合型地域スポーツクラブについては、誰もが気軽にスポーツに取り組める場として、また、子どもにとっては様々なスポーツを体験する場としての役割が期待されており、活動内容の充実や、認知度を上げていくことが必要となっています。

⑥ スポーツ施設利用や整備に関する現状と課題

1) 主なスポーツ施設の利用状況

主なスポーツ施設の利用状況は、全体の利用者数が年間のべ約 70 万人で推移しています。

施設別にみると、総合運動公園（旧：勤労青少年運動場 以下、総合運動公園と記載する）が改修工事の影響で利用者が減少しているものの、そのほかの施設は、増減しながら緩やかに増加しています。

● 主なスポーツ施設の利用状況

施設名（体育館）	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総合体育館	158,212 人	188,540 人	187,464 人
那加地区体育館	12,782 人	11,245 人	11,671 人
蘇原地区体育館	14,948 人	16,514 人	16,379 人
稲羽地区体育館	11,213 人	13,756 人	12,048 人
鵜沼地区体育館	14,193 人	15,652 人	16,529 人
鵜沼西地区体育館	27,624 人	28,342 人	27,194 人
桜体育館	27,230 人	38,203 人	37,517 人
総合運動公園（勤労青少年運動場）	98,162 人	95,513 人	69,920 人
向山運動場	7,098 人	5,787 人	5,477 人
市民球場	13,739 人	15,180 人	14,420 人
飛島球場	12,904 人	15,223 人	20,285 人
協定グラウンド	19,820 人	26,239 人	24,285 人
川島スポーツ公園	28,619 人	29,233 人	24,589 人
スポーツ広場（スポーツの森を含む）	75,878 人	84,119 人	93,816 人
勤労者総合グラウンド	13,746 人	16,677 人	18,330 人
弓道場	5,421 人	6,190 人	6,761 人
市民プール	133,970 人	154,187 人	132,283 人
利用者合計	675,559 人	760,600 人	718,968 人

資料：スポーツ課

2) スポーツ施設の整備状況

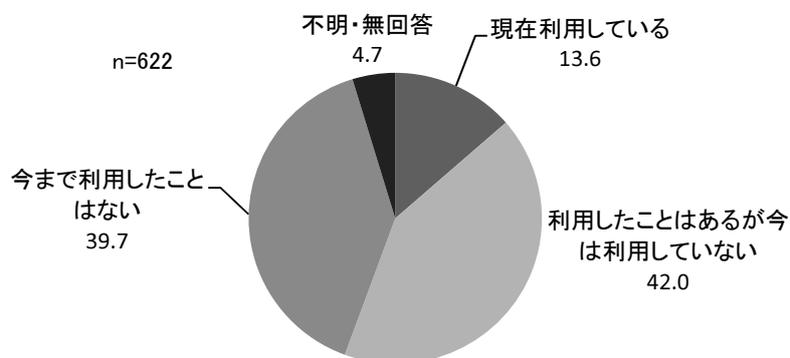
総合運動公園の整備工事をはじめ、市内の各スポーツ施設の機能維持及び延命化のため、計画的に整備を実施しています。（参照：●主な施設整備計画）また、一般市民向けのスポーツ施設関連のアンケート結果では、「現在利用している」が13.6%、「利用したことはあるが今は利用していない」が42.0%と、合わせて全体の5割強で利用経験があり、「今まで利用したことはない」が39.7%となっています。（参照：問：あなたは、市の公共スポーツ施設を利用したことがありますか）

●主な施設整備計画



資料：スポーツ課

●問：あなたは、市の公共スポーツ施設を利用したことがありますか



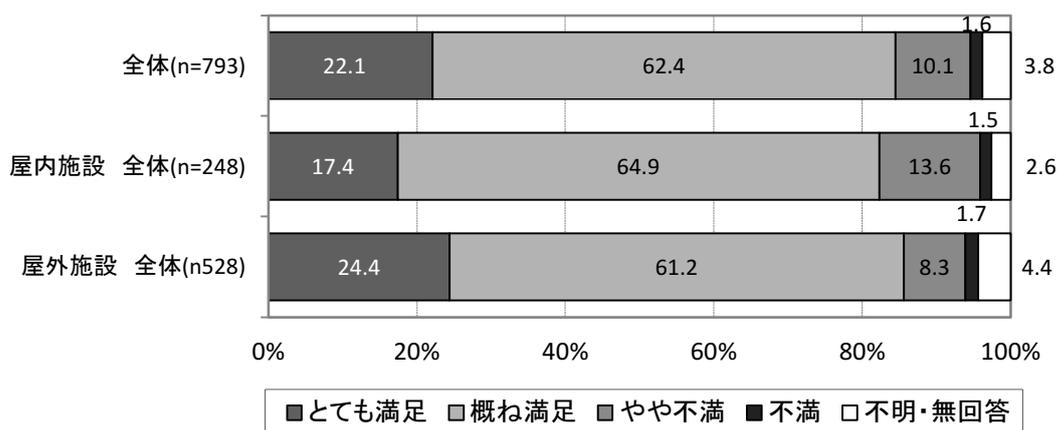
各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

3) スポーツ施設の満足度や整備希望について

「市内公共スポーツ施設における満足度調査」の結果をみると、現状の施設について、全体的な満足度は「とても満足」が22.1%「概ね満足」が62.4%と、合わせて84.5%となっています。施設別にみると、屋内施設では「とても満足」と「概ね満足」が合わせて82.3%となっています。屋外施設では「とても満足」と「概ね満足」が合わせて85.6%となっています。（参照：●市内公共スポーツ施設の全体的な満足度について）

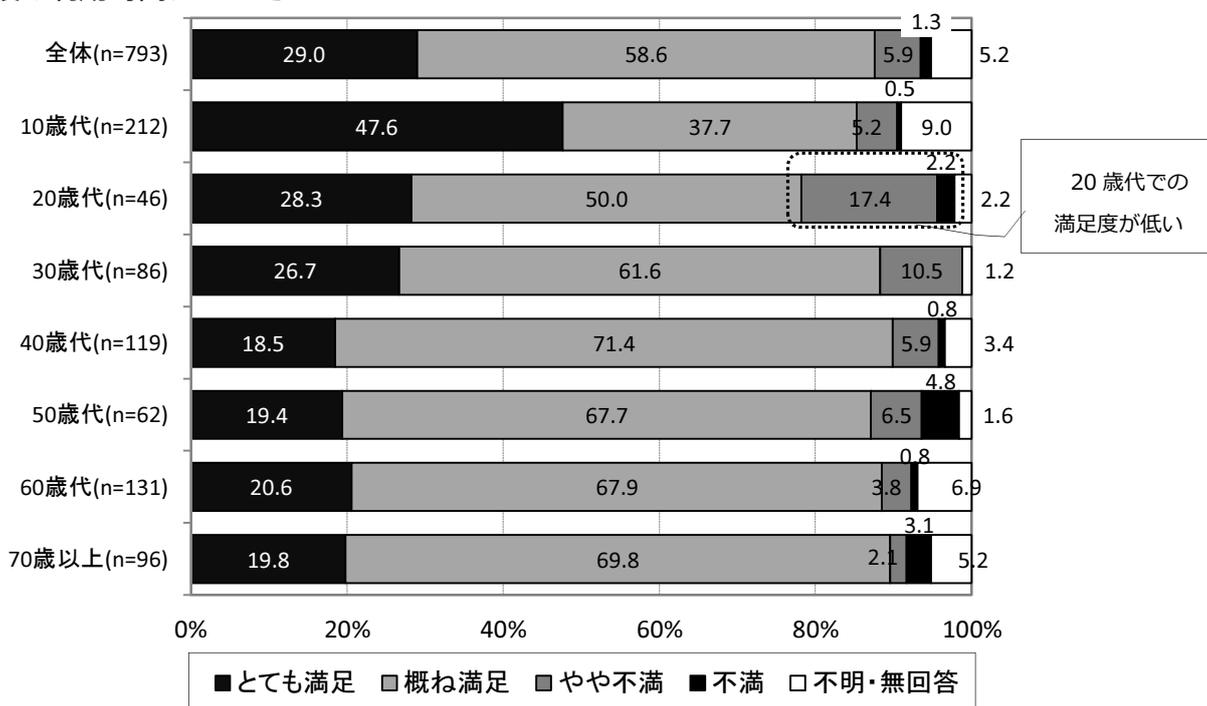
一方、「施設の利用時間」や「職員の対応」などの個別項目について年代別回答をみると、利用時間については20歳代の満足度が低く、職員の対応については50歳代の満足度が低くなっています。（参照：●施設の利用時間について ●施設の職員の対応について）

●市内公共スポーツ施設の全体的な満足度について

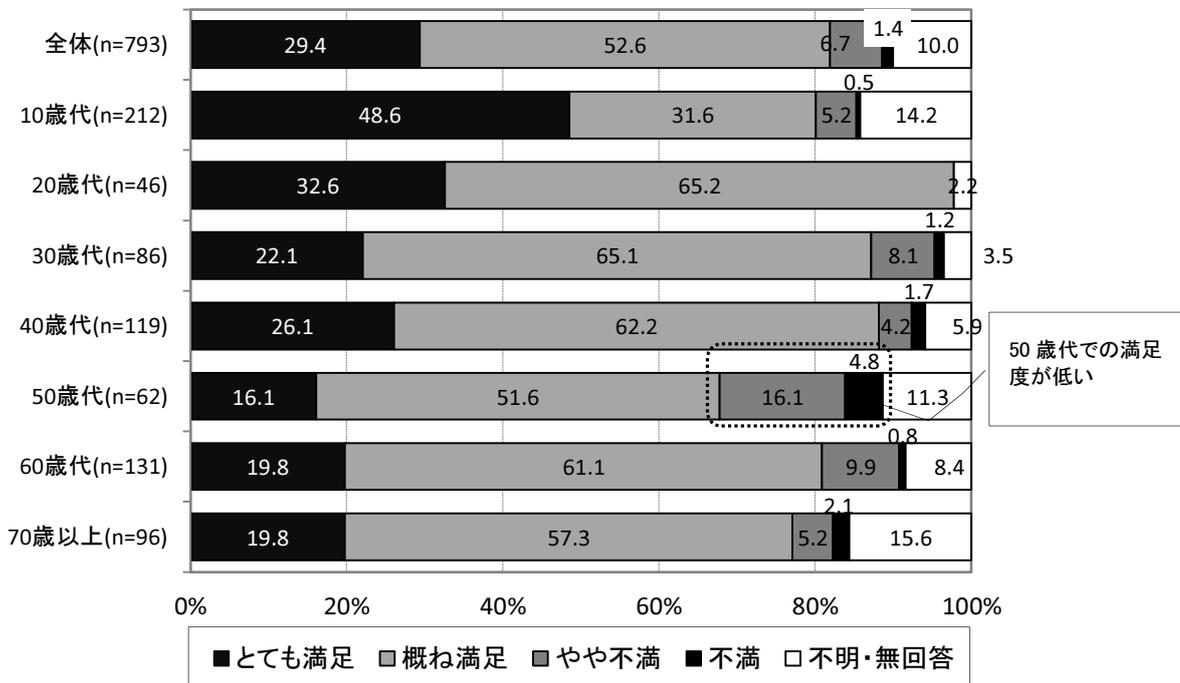


各務原市 平成 27 年 市内公共スポーツ施設における満足度調査

●施設の利用時間について

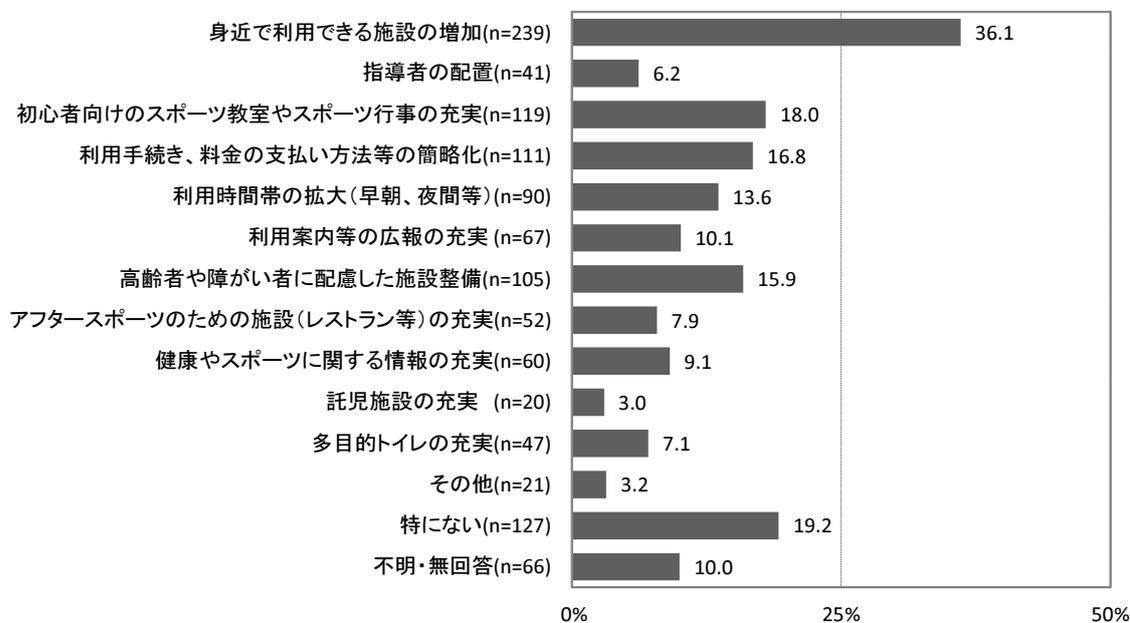


●施設の職員の対応について

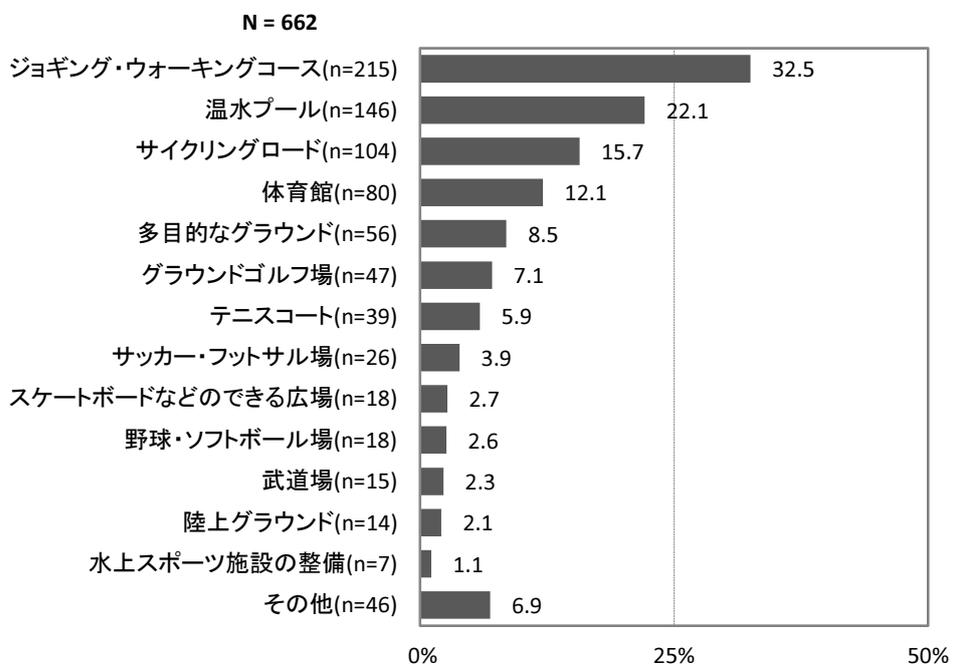


施設整備の希望をみると、「ジョギング・ウォーキングコース」、「温水プール」、「サイクリングロード」の割合が高くなっています。

● 問：公共スポーツ施設について、何か望むことはありますか（複数回答）



● 問：各務原市内で、これから整備してほしいスポーツ施設は何ですか（複数回答）

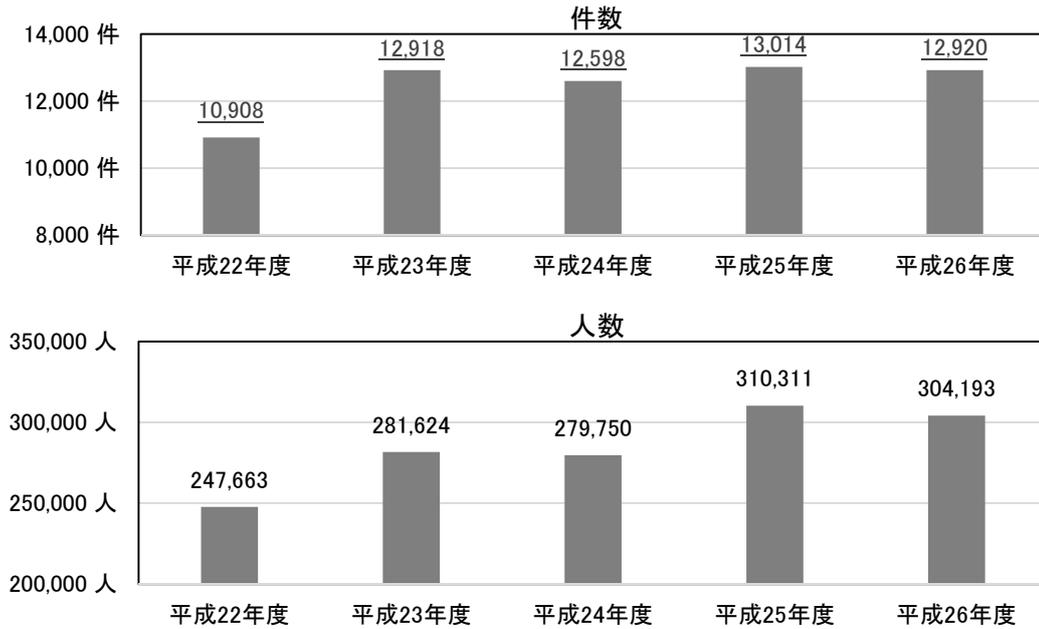


各務原市 平成 27 年 スポーツ推進に関するアンケート結果（一般向け）

4) 学校開放施設の利用状況

身近なスポーツ施設として、市内の小中学校と養護学校において、学校施設（運動場・体育館・格技場）開放を行っています。学校施設開放の利用者数は、年ごとにばらつきはあるものの、増加傾向であり、平成26年度ではのべ30万人が利用しています。

● 学校開放の状況



資料：スポーツ課

スポーツ施設に関する現状と課題 まとめ

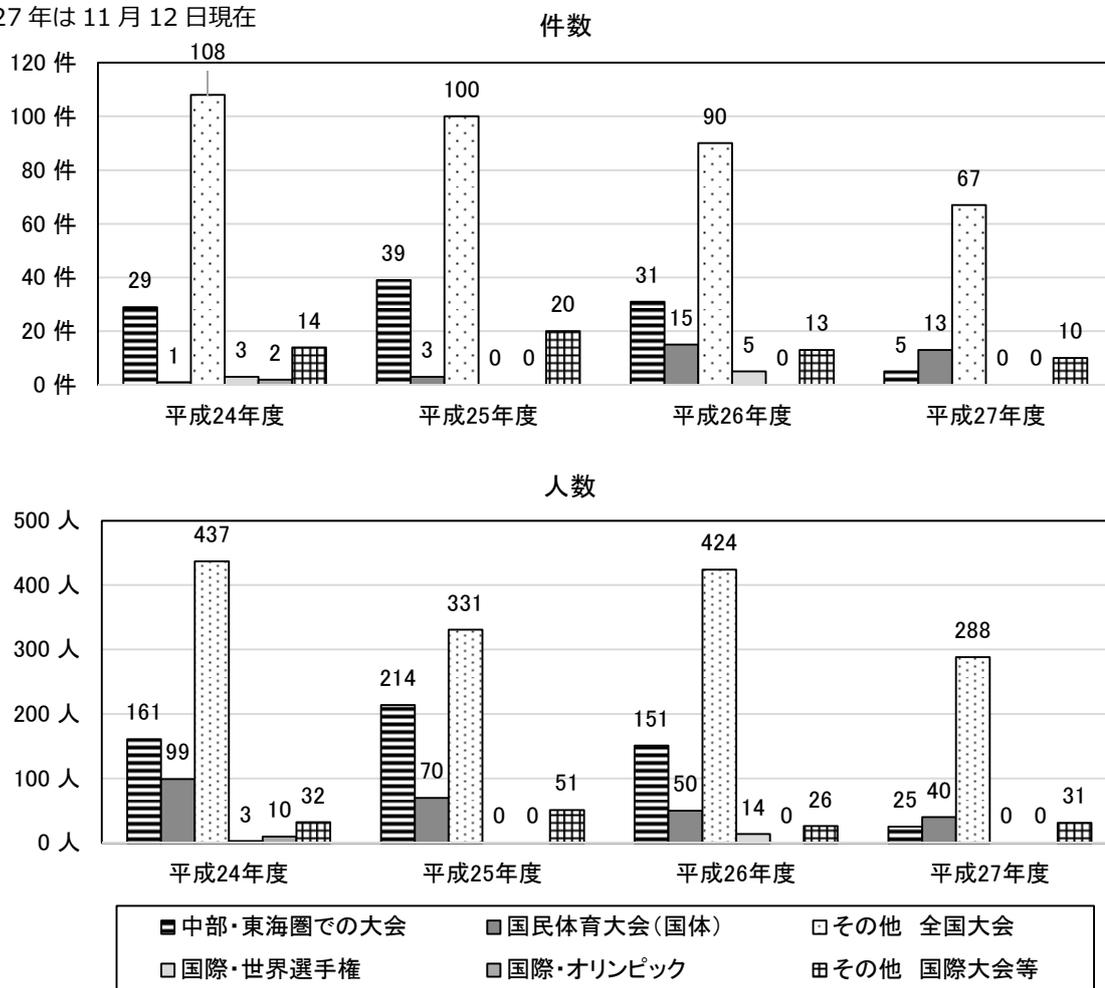
1. スポーツ施設の年間のべ利用人数の推移をみると、概ね増加傾向であり、各施設の整備・改修工事の終了後は更なる利用者増加が見込まれます。整備については施設の延命と利便性の向上を同時に叶えることができる施設づくりが求められています
2. 市のスポーツ施設利用者アンケートからは、屋内・屋外施設ともに利用満足度が高くなっています。
3. スポーツ推進に関するアンケートによると、「ジョギング・ウォーキングコースの整備」など、気軽に一人でも実施できるスポーツの施設整備のニーズが高くなっています。また、既存施設の利用時間、駐車場環境などの利便性や利用料金等、様々なニーズに対応した施設整備が必要となっています。
4. 学校開放施設の利用状況については、利用人数が年間約 30 万人となっており、近年増加傾向にあり、市民の利用ニーズが高まっていることがうかがえます。

⑦ 競技スポーツに関する現状と課題

本市はホッケー競技が盛んであり、ホッケーチームのレベルも高い水準を維持しています。また、オリンピック出場経験を持つ選手や日本代表選手・コーチも多く輩出しており、スポーツ少年団から中学、高校、大学生までの各世代において、東京オリンピックを見据えたさらなる競技の振興と競技レベルの向上を目指しています。そのほかの競技においても、年間約 100 件、参加人数 300 人から 500 人が全国レベルの大会に参加しており、本市には多くの競技者が在住しています。

● 国内大会・国際大会への参加件数および参加人数

※平成 27 年は 11 月 12 日現在



資料：スポーツ課

競技スポーツに関する現状と課題 まとめ

1. 2020年の東京オリンピック・パラリンピックなど、国内での国際大会の開催を好機ととらえ、スポーツ気運の醸成やスポーツを始めるきっかけづくりとなる取り組みが必要となっています。
2. 本市ではホッケー競技が盛んであり、市内のホッケーチームのレベルも高い水準にあります。また、オリンピック選手も多数輩出しており、ホッケーの推進は次代を担う子どもたちに夢と希望を与えるものとなっています。

3章 スポーツ推進の方向性

第1節 各務原市総合計画（目指す姿）

本市のさらなるスポーツ推進のため、教育委員会として目指す姿は以下の4点となります。

●生涯スポーツ普及のための機会が充実し、市民が日常的にスポーツに親しむ

姿1

●地域のスポーツ団体やボランティア等に支えられ、健康的で活力ある地域がつくられる

姿2

●市民の多様なニーズに応じたスポーツ施設が身近に整備されている

姿3

●「ホッケー王国かかみがはら」として知名度が高まっている

姿4

第2節 各務原市教育大綱

「Ⅲ 健康で活力ある地域づくりを支えるスポーツ活動を推進します より抜粋」

健康の保持・増進を図るための生涯スポーツの普及から、スポーツ競技力の向上の推進に至るまで、すべての市民が日常的にスポーツに取り組み、心身ともに健康に暮らせるまちづくりを目指します。

第3節 各務原市教育振興基本計画

「基本目標5 スポーツの振興 より抜粋」

健康に対する意識の高まりにより、スポーツを「する」「観る」「支える」など、多様なニーズに応えるための機会の創出や仕組みづくり、施設の充実が求められています。スポーツでは、「健康で活力ある地域づくり」を目指して、市民が生涯にわたって気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。また、市内で活発に行われ、ホッケー競技を通じた交流の促進と各務原市の魅力の発信のための取り組みを推進します。

第4節 基本理念

本市のスポーツ・運動に関する現状と課題、総合計画で示した「目指す姿」、「各務原市教育大綱」加えて「各務原市教育振興基本計画」の内容をふまえ、今後のスポーツ推進施策を展開するにあたり、考え方の基礎となる本スポーツ推進計画の基本理念を、以下のように掲げその実現を目指します。

はばた 翔け！ かかみがはら ～スポーツでひろ 笑顔と感動～

基本理念の「^{はばた}翔け！ かかみがはら」は、市民が元気に生涯スポーツや競技スポーツに励み、地域あるいは全国や世界の舞台で様々な活躍している姿をイメージしました。

「スポーツで^{ひろ}ひろげよう、^{えがお}笑顔と^{かんだう}感動」は、人々の幸せ（笑顔や感動）の輪が、スポーツ活動を通じて市内に広がっていくことをイメージし、これらを実現していきたい、という想いが込められています。

第5節 施策の体系

基本理念の実現のために、以下の4つを基本目標として掲げ、その具体的な施策について、取り組みを進めます。

基本目標1. スポーツ機会の創出

- 施策1：誰もが参加できるスポーツ大会の推進
- 施策2：子どもの成長段階に合わせたスポーツ機会の創出
- 施策3：高齢者や障がいがある人のスポーツ推進

基本目標2. 地域スポーツ活動への支援

- 施策1：指導者の育成支援
- 施策2：地域スポーツ活動の支援と連携促進

基本目標3. スポーツ施設の充実

- 施策1：スポーツ施設の整備実施
- 施策2：適切な施設運営の推進

基本目標4. 競技スポーツの向上 (ホッケーの推進)

- 施策1：ホッケー競技の強化
- 施策2：各種スポーツのレベル向上

4章 具体的な施策

本章では、基本目標とその具体的な施策を推進する事業内容を示すとともに、施策の効果や進捗具合を測り、評価、改善の基礎資料となるよう、施策ごとに数値目標を掲げています。

基本目標 1. スポーツ機会の創出

現状と課題

大人のスポーツ活動状況については、20代から40代にかけて、運動習慣や運動機会が少ない傾向にあり、仕事や家事などの忙しさが影響している可能性が高いため、時間と手間をかけずにできるスポーツ種目の情報や機会の提供が求められています。

子どものスポーツ参加機会については、小学5年生と中学2年生での運動傾向にはっきりとした違いがみられるため、それに応じたスポーツの機会を提供するとともに、保護者への情報の周知に努める必要があります。

高齢者や障がい者のスポーツ機会を増やし、日常的に体を動かすことができる環境づくりを通じて、市民の社会参加を促す施策や、心身の健康を保つ意識の向上につながる施策に取り組む必要があります。

今後の方向性

気軽に参加できるイベントやスクールの開催、全国・国際レベルの大会の誘致・開催をとおして、市民がスポーツを始める機会の創出や、生涯に渡ってスポーツに親しむ機会の充実を図ります。また、ライフステージや個々の状況に配慮した多くのスポーツ機会を創出し、「運動をまったくしない」市民の割合を減らし、より多くの人々が、日々の暮らしの中にスポーツを習慣として取り入れることを目指します。

【基本目標 1 目標数値】

スポーツ実施率の上昇				
現状値 平成 27 年		中間目標 平成 31 年		最終目標 平成 36 年
40.5%		45%		50%
<p style="text-align: right;">スポーツ推進に関するアンケート問 5（一般向け）より</p> <p>（P 7, 8 参照）国：47.5%(平成 24 年)、岐阜県 48.1%(平成 27 年) 本市のスポーツ実施率は国や県と比べ、低い値であることから、様々な施策を通してスポーツ実施率を上昇させていく。</p> <p>参考：国のスポーツ基本計画目標数値は平成 33 年にスポーツ実施率 65%以上だが、平成 27 年時点では推計 40.5%</p>				

各種スポーツスクールへの参加する小学生の割合				
現状値 平成 26 年		中間目標 平成 31 年		最終目標 平成 36 年
68.0%		73%		78%
<p style="text-align: right;">スポーツスクール参加人数の統計より</p> <p>（P 24 参照）将来を担う子どもたちに少しでも多くスポーツにふれるきっかけをつくるため、各種のスポーツスクールを開催している。スポーツを好きになってもらえるよう、親子で一緒に楽しむことができ、かつ家庭でも継続できるよう内容を工夫するとともに、参加する小学生の割合を増加させていくことを目指す。</p> <p>現状値の算出方法：平成 26 年度開催のスポーツスクール定員合計 250 人中参加者合計 170 人 = 68%</p>				

基本目標1 施策1

誰もが参加できるスポーツ大会の推進

平成28年9月に開催される、全国レクリエーション大会 in 岐阜大会の開催をはじめとする各種スポーツ大会の実施・主催などを担い、市民のスポーツ参加機会を創出します。

具体的事業

事業名	概要
全国レクリエーション大会 in 岐阜大会の開催	平成28年9月22日～25日に開催される全国レクリエーション大会 in 岐阜大会の運営を支援します。「みるスポーツ」から「するスポーツ」へ、生涯スポーツをはじめのきっかけとして開催される大会となるように努めます。
かかみがはらシティマラソン事業	かかみがはらシティマラソン大会を、地域活性化あるいはシティセールスの重要なイベントと位置付け、参加者に本市の魅力を知っていただけるような周知活動を行います。また、スポーツボランティアとしての参加者が多い本事業を、市民活動機会の中心として円滑な運営に努めつつ、より多くの市内外のランナーが楽しむことができる大会にします。
スポーツげんき祭事業	生涯スポーツの観点から、軽スポーツ体験をとおして運動する喜びと楽しさを味わうことができ、様々な種目を楽しむことができるイベントにします。子どもたちが今後どのようなスポーツに取り組むか、選択できる「体験の場」となるよう努めます。
スポーツスクールの開催	生涯スポーツの振興を図るため、初心者でも気軽に参加できる各種スポーツスクール、ホッケー講習会を開催します。

具体的事業

事業名	概要
かかみがはらDEウォーキング事業	本市の美しい自然や街並みを、多くの仲間と一緒に楽しく歩くことで、本市の魅力やウォーキングの楽しさを感じてもらい、健康維持を目的として今後のスポーツ（体力づくりや健康維持）へのきっかけになることを目指します。
軽スポーツ交流大会	誰でも気軽に参加できる交流大会を実施し、市民のスポーツ推進を支援します。また、大会参加者が住んでいる地域へ戻り、地域交流の担い手としてスポーツを通じた地域振興ができる土台づくりに努めます。
各小学区体育振興会事業	17小学区体育振興会への支援を通じ、市民運動会やウォークラリーなどのイベントを計画・実施します。各学区において、2～3世代が参加できるクロリティ大会や、ウォークラリーなどを実施します。
スポーツ情報の周知推進	誰もが気軽に取り組めるよう、ウォーキングマップやスポーツ関連情報を様々な媒体に掲載するとともに、スポーツができる場所や情報などを見ることができる「（仮称）スポーツ情報マップ」を作成します。

基本目標 1 施策 2

子どもの成長段階に合わせたスポーツ機会の創出

子どもの成長段階における運動・スポーツへの参加は健康な体づくりだけでなく、社会性の向上や、心の健康づくりにも重要な役割を担っており、それらの力を育むことができる運動機会を創出し、スポーツ人口の裾野を広げます。

具体的事業

事業名	概要
コーディネーショントレーニングの推進	神経の働きが最も伸びる幼児期から成長期に、身体を巧みに操る能力を身につけるトレーニングを実施します。
たけのこまつり	各務野自然遺産の森において、竹馬やフラフープ遊びの他、オリエンテーリング体験などのイベントを実施します。
河跡湖フェスティバル	河跡湖公園にてEボート体験や竹馬、フラフープなどで遊べるイベントを実施します。
わんぱくテント泊	テント泊などのアウトドア体験を実施します。子どもたちが自然に親しむ機会づくりとともに、集団での社会生活の中で心身を鍛えることを目的として実施します。
ぼうけん王国	少年自然の家や他の施設を利用して様々な体験をする中で、豊かな自然を感じるとともに、困難に立ち向かうことができるチャレンジ精神を養います。
放課後子ども教室	地域と学校の協力で、小学校ごとに年間15回程度実施する放課後子ども教室において、スポーツメニューとして子どもと地域住民がドッジボールやペタンク、大縄跳びなどの運動を行う機会をつくります。
企業スポーツ選手中学校部活動講師派遣	市内企業に所属するアスリートを講師に迎え、学校の部活動への技術指導を実施し、スポーツ競技レベルの向上を推進します。

具体的事業

事業名	概要
各務原中学校体育連盟総合体育大会	各務原市中学校体育連盟が主催し、各種体育大会を開催します。熱中症対策や落雷への安全面の対策を講じつつ、大会を継続して実施します。
体力テストの実施	全中学校で体力テスト（全国共通）を実施します。国や県の平均を上回ることを目標に、日頃の体育授業の質向上と、生徒が運動を親しむための環境づくりを実施します。
小中学校学力向上パワーアップ事業	学校の授業や水泳教室への講師派遣を、市の水泳協会の協力を得て実施します。今後は指導員の育成を行い、持続可能な内容を検討しつつ継続実施します。
家庭でできる運動の紹介	正しいストレッチ方法や筋力トレーニングなどの紹介と啓発を行います。
トップアスリート講師による講演会と実技指導イベントの開催	オリンピックや国際大会、プロスポーツなど、トップレベルのアスリートや指導者を招き、講演会や実技指導を行うとともに、子どもたちが将来の夢を抱くことができるよう支援をします。

基本目標1 施策3

高齢者や障がいがある人のスポーツ推進

65歳以上の高齢者がこれからも健やかに過ごしていくためには、日頃からの運動習慣は欠かすことができません。ウォーキングをはじめ、ペタンクなど軽スポーツの啓発などを図るとともに、スポーツを行うことで得られる生きがいや交流、健康へのメリットを伝えられるような取り組みを進めます。また、障がいのある人が気軽にスポーツへ取り組むことができる環境づくりに努め、心と体の健康を同時に得ることができるスポーツ環境の整備に努めます。

具体的事業

事業名	概要
高齢者体力測定大会	65歳以上の高齢者を対象に、毎年2会場で体力測定を実施し、健康への意識づけに努めます。
軽スポーツ用具の貸出（ニュースポーツ）	市民の生涯スポーツ・学習活動を支援するために、軽スポーツ用具を無料で貸出します。
らくらく体操ひろば	地域での自主運動の促進のため、65歳以上の高齢者を対象に、毎月簡単な体操や筋肉トレーニングを行います。
市シニアクラブ連合会開催の軽スポーツ大会	市シニアクラブ主催で、グラウンドゴルフ、クローケーゴルフ、クロリティー、ペタンクなどの軽スポーツ大会を開催します。
障がい者を対象とした各種スポーツ大会	岐阜県の障害者スポーツ協会が開催する各種スポーツ大会を支援します。
介護予防の推進	高齢者が健康を維持するための介護予防に関する情報発信と、市民が参加しやすい講座づくりに努めます。

基本目標 2. 地域スポーツ活動への支援

現状と課題

スポーツ活動団体への調査の結果、ほとんどすべてのスポーツ種目において、指導者の高齢化と慢性的な人材不足が課題として挙げられます。これは全国的な課題となっていますが、今後のスポーツ推進にあたり、指導者の育成は欠かすことができません。特に、若年の世代を次世代指導者として早急に育成する必要があります。

スポーツ種目ごとに様々な協会や同好会がありますが、団体同士の連携はほとんど行われていません。今後は協会や種目の枠を超えた活動の連携ができるよう、支援方法を検討していく必要があります。

今後の方向性

各スポーツ団体の活動を支援するとともに、スポーツ指導者の育成支援に力を入れて取り組みます。また、各スポーツ活動団体間の連携を深め、スポーツ全体の振興、市内のスポーツ活動の活性化を図ります。さらに、現在実施している各スポーツイベントの継続や、新たな企画により関係団体との協力体制を築き、市内のスポーツ活動が一層活性化するよう努めます。

【基本目標2 目標数値】

スポーツ指導者育成研修の参加者のべ人数(平成25年から積上げ)				
現状値		中間目標 平成31年		最終目標 平成36年
686人		1,700人		2,900人
<p style="text-align: right;">スポーツ課 統計より</p> <p>(P30参照) スポーツ推進のため、指導者育成を重点施策として推進する。指導者育成研修参加者数は、リピート受講も含め、毎年一定数の受講者数を積み上げていくことを目標とする。</p> <p>現状値の算出方法：平成25年220人、平成26年195人、平成27年271人の3か年の合計。</p> <p>中間目標および最終目標は、現状の3か年平均229人を参考に、増加させていくことを前提として、中間目標である平成31年は(1年あたり240人の参加×4か年=のべ960人)の積み上げ、最終目標である平成36年は(1年あたり250人の参加×5か年=のべ1,200人)の積み上げとした。</p>				

軽スポーツ交流会 定員充足率の増加				
現状値 平成26年		中間目標 平成31年		最終目標 平成36年
92.5%		93%		95%
<p style="text-align: right;">スポーツ課 統計より</p> <p>(P29参照) 年6度の開催となっている交流会への定員を充足させることを目指していく。</p>				

基本目標2 施策1

指導者の育成支援

各スポーツにおける指導者の高齢化および人材不足の解消を図るため、次世代の指導者育成のための研修実施と、指導レベル向上のための研修参加費用の助成など、これからの指導者人材を育てるための支援を充実します。

具体的事業

事業名	概要
スポーツ指導者養成研修	夏季教職員研修や、スポーツ指導者育成事業において、コーディネーショントレーニングやフィジカルコンディショニングの講座を実施し指導の参考となる環境をつくります。
スポーツ指導者資格取得助成事業	学校運動部活動指導者育成のため、指導資格取得に必要な経費を助成し、指導資格取得が容易になるよう支援します。
スポーツ少年団指導者認定養成講習会	スポーツ少年団において講習会を実施し、受講認定をすることで指導者のスキルアップを図ります。
小学校保健体育担当者会	市内児童の体力や健康の向上について、各小学校の取り組みの情報交換や検討の場を開催し、担当者間での情報共有を図り、間接的に授業を支援できるよう努めます。
体育協会指導者派遣事業	市内の各中学校部活動からの依頼に応じて、各種目協会からの指導者の派遣の仲介を通じて支援を行い、市内スポーツレベルの向上を支える体制を確立します。
団体間意見交換会	スポーツ団体間の活動連携を促すための意見交換の場を持ち、指導者のレベル向上を図ります。

基本目標2 施策2

地域スポーツ活動の支援と連携促進

地域のスポーツ関連団体による活動への支援を図るとともに、団体同士、あるいは個人同士の活動の連携が可能となるような支援を実施します。

具体的事業

事業名	概要
体育協会・スポーツ少年団・体育振興会活動の支援	体育協会、スポーツ少年団、体育振興会の活動に関する周知活動をはじめ、連絡会議などの開催により、関係者との連絡・連携を図ります。
【再掲】軽スポーツ用具の貸出（ニュースポーツ）	市民の生涯スポーツ・学習活動を支援するために、軽スポーツ用具を無料で貸出します。
スポーツボランティア活動の支援	市が主催するスポーツイベントへのボランティア参加を呼び掛けるとともに、安全に参加してもらえよう努めます。
スポーツ推進委員の充実	スポーツ推進委員の認知度を高め、各地域での生涯スポーツを盛んにする活動を支援します。
総合型地域スポーツクラブへの支援	総合型地域スポーツクラブの開催の場を引き続き提供していくとともに、活動の周知を図ります。

基本目標 3. スポーツ施設の充実

現状と課題

様々な種目が行われるスポーツ施設において、安全で快適に利用することができるよう、特にスポーツ施設そのものの整備に加え、更衣室やトイレの環境など、周辺施設についても、適切な整備が求められています。

今後の方向性

各務原市総合運動公園の整備工事をはじめ、各スポーツ施設の機能維持及び延命化を図り、安全な利用に努めます。また、バリアフリーなどの施設整備を推進し、利便性向上に努めます。

【基本目標 3 目標数値】

公共スポーツ施設の満足度 「とても満足」「概ね満足」と答えた人の割合				
現状値 平成 27 年		中間目標 平成 31 年		最終目標 平成 36 年
84.5%		85%以上		85%以上
<p style="text-align: right;">市内公共スポーツ施設における満足度調査結果より (本文 P 37 参照) 全体的な満足度で「とても満足」22.1%と、「概ね満足」62.4%と合わせた 84.5%を現状値とする。今後についても、現状と同程度の満足度が得られるような整備や運営に努める。</p>				

公共スポーツ施設利用者数				
現状値		中間目標 平成 31 年		最終目標 平成 36 年
718,325 人		72 万人		73 万人
<p style="text-align: right;">主なスポーツ施設の利用状況より (本文 P 35 参照) 施設の満足度に加え、利用者数も目標としていく。年間の施設利用者のべ人数合計を、平成 24,25,26 年の平均である約 70 万人を維持していくことを目指す。 現状値の算出方法 平成 24,25,26 年の利用のべ人数 3 か年平均。</p>				

基本目標3 施策1

スポーツ施設の整備実施

安全かつ快適にスポーツを行うことができる環境づくりを念頭に置いた整備に努めます。現在ある施設の延命化を図り、利便性を向上させることを基本とした整備に取り組むとともに、新総合体育館のあり方について、規模・場所・内容など、市民のニーズを把握しながら、今後予想される少子高齢化や人口減少を見据え、適切な施設となるよう整備を進めます。また、高齢者や障がいのある人が快適に施設を利用するための手すりの設置やバリアフリー化を進めます。

具体的事業

事業名	概要
各務原市総合運動公園再整備事業	平成26年度より3か年で再整備を実施しており、適切な競技場の配置を進めるとともに、競技に必要な備品購入や運動場出入口（堤防道路）の拡幅などを実施します。
スポーツ施設備品整備事業	学校開放体育施設における卓球台の更新の他、スポーツ広場トラックターや人工芝アタッチメント、バドミントン支柱の更新など、必要な備品整備を推進します。
地区体育館リニューアル事業	各地域にある地区体育館のバリアフリー化を進め、利便性の向上を図ります。
川島スポーツ公園 リノベーション事業	公園全体をリノベーションすることを基本とする、リニューアル構想を策定し、快適なスポーツ環境の整備を進めます。
福祉スポーツ環境の構築	障がい者や高齢者に考慮したスポーツ環境の構築を検討します。
新総合体育館の整備	当面の財政事情と既存施設の利活用を考慮しながら、長く市民に親しまれる総合体育館となるよう、具体的な配置と規模などについて協議を進め、整備を推進します。

基本目標3 施策2

適切な施設運営の推進

市内にある体育施設は指定管理制度のもとで管理しており、今後も適切な管理者の選定と指導、および連絡・連携を密にし、円滑な施設運営を図ります。また、国内有数のホッケー施設であるグリーンスタジアムの適切な管理を行い、さらなる競技レベルの向上を支えます。また、スポーツ施設を快適に利用するために、誰もが公平に施設の予約ができるよう、システムなどの見直しを進めます。

具体的事業

事業名	概要
体育施設指定管理の円滑運営	総合運動公園、総合体育館、スポーツ広場など、市内体育施設の適切な管理を指定管理者とともに実施し、市民が快適に利用できる環境を整えます。
岐阜県グリーンスタジアム管理事業	岐阜県の施設であるグリーンスタジアムの管理・運営を通じて、トップレベルの競技を支えつつ、誰もが参加できるイベントなどを実施し、市民に親しまれる施設づくりに努めます。
公共施設予約システム管理	市民が円滑かつ公平にスポーツ施設を利用できる、予約システムの利便性向上に努めます。

基本目標 4. 競技スポーツの向上（ホッケーの推進）

現状と課題

ホッケー競技は国内トップレベルであり、今後も全国の間や世界の舞台での活躍が期待されています。本計画期間中に開催される東京オリンピック・パラリンピックでの活躍を大きな目標として見据え、本市出身者や在住者が、継続的に世界で活躍できるようなスポーツ環境を提供します。ホッケー以外の種目についても、高校サッカーの全国大会出場や車いすテニスでの世界大会への出場など、各スポーツ大会において実績を積み上げており、今後も競技スポーツレベルの底上げと活動への協力が望まれています。

今後の方向性

「ホッケー王国かかみがはら」として、世界と戦えるトップレベルの選手を今後も育成するとともに、そのほかの競技スポーツについても牽引役となって、市のスポーツレベル全体を向上させるきっかけとなるよう、活動の支援を図ります。また、すべてのスポーツ種目において、競技レベルを上げるため、指導者の交流や派遣などができる土台づくりに努めます。

【基本目標 4 目標数値】

全国大会・国際大会への参加件数				
現状値		中間目標 平成 31 年		最終目標 平成 36 年
平成 26 年全国 136 件 国際 13 件 平成 25 年全国 142 件 国際 20 件		全国大会 140 件 国際大会 20 件		全国大会 145 件 国際大会 25 件
スポーツ課 統計より				
<p>(P 42 参照) 市内で活躍するトップアスリートが、これからも高いレベルを維持できるよう様々な支援を行う。それにより、今後も全国大会（中部・東海大会を含む）や国際大会での参加件数を維持・増加を目指す。</p>				

基本目標4 施策1

ホッケー競技の強化

本市の特徴であり、競技レベルにおいても全国有数な力を持つホッケー競技の更なるレベルアップを目指し、競技人口の拡大、企業などへの協力・連携などに取り組みます。

特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、選手の育成と代表選手の輩出のため、関係機関との連携を図りつつ施策を推進します。また、ホッケー競技者の増加と、次世代の代表選手育成を見据え、社会人選手などの派遣により、中学校部活動での技術指導の機会を創出するなど、競技レベルを向上させる取り組みを推進します。

具体的事業

事業名	概要
全国大会や国際大会の招致	平成28年度開催の「全国高等学校選抜ホッケー大会」の開催を支援するとともに、今後も全国、国際レベルのホッケー大会を招致し、円滑な大会運営を支援します。
オリンピック・パラリンピックなどにおけるホッケーチームキャンプ地誘致	オリンピック・パラリンピック大会をはじめとする国際大会において、ホッケー競技のキャンプ地として本市のグリーンスタジアムなど、恵まれた環境であることのPRを積極的に行い、誘致に努めます。
ホッケー講習会の実施	市内で活躍するトップ選手による子どもたちへのホッケー体験会の開催や、市内企業との協定による中学校ホッケー部活動での技術指導を実施し、競技レベル向上を目指します。
グリーンスタジアムの充実	日本一のホッケー場である「岐阜県グリーンスタジアム」の一層の充実のため、県との調整を図ります。

基本目標4 施策2

各種スポーツのレベル向上

各団体や関係者との協働により、市内で活動しているスポーツ愛好者の競技レベルの向上を図り、スポーツに対する意識の変化と、競技レベル向上によるスポーツ活動全体の機運が高まるような支援に努めます。

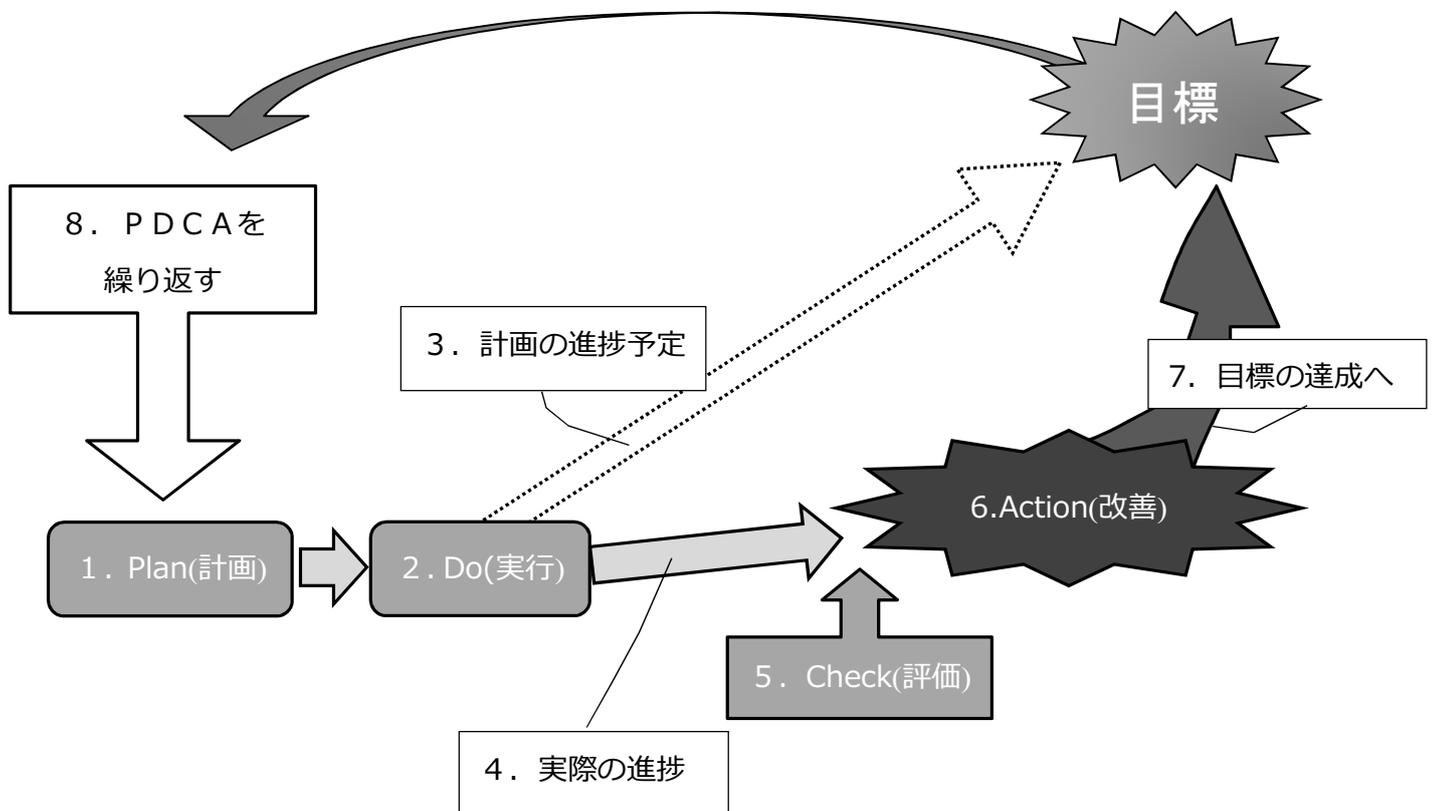
具体的事業

事業名	概要
スポーツ大会出場者奨励事業	様々なスポーツ大会への参加者を支援します。特に遠方への大会参加や、サポートが得られにくい種目などへの切れ目のない支援を実施します。
【再掲】コーディネーショントレーニングの推進	神経の働きが最も伸びる幼児期から成長期に、身体を巧みに操る能力を身につけるトレーニングを実施します。
著名人による講演会や実技指導イベントの実施	市民のスポーツレベル向上のため、著名なスポーツ関係者を招き講演会を実施するとともに、実技指導が受けられるようなイベントを開催します。
有力選手の紹介	市の広報紙やウェブサイトなどの媒体を利用し、本市にゆかりのあるアスリートを紹介します。

5章 計画の推進体制

第1節 進捗管理体制（PDCAサイクル）

毎年、目標数値に関する進捗管理を行うとともに、庁内関係部局及び各スポーツ関係団体（体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会など）との連携を図り、意見や助言などを参考にしながら、Plan（計画）、Do（実施・実行）、Check（検証・評価）、Action（改善）のプロセスをふまえた「PDCAサイクル」に基づき、事業の改善を行います。



資料編

第1節 策定の行程

年月	内容	備考
平成 27 年 7 月	第1回各務原市スポーツ推進計画策定委員会	議題① スポーツ推進計画の位置づけについて 議題② 計画書の概要(案)について 議題③ 計画策定スケジュールについて
	スポーツ推進に関するアンケートの実施	一般 2,000 人 小中学生 600 人
平成 27 年 10 月	第2回各務原市スポーツ推進計画策定委員会	議題① アンケート調査結果報告 議題② 計画書(案)について
平成 27 年 11、12 月	市内公共スポーツ施設における満足度調査の実施	市内各スポーツ施設にて実施 屋外施設 531 人、屋内施設 262 人
平成 28 年 1 月	第3回各務原市スポーツ推進計画策定委員会	議題① 施設アンケート調査結果報告 議題② 計画書(最終案)について
平成 28 年 2 月	パブリックコメントの実施	平成 28 年1月 19 日～2 月1日

第2節 策定要綱

各務原市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(平成27年3月30日決裁)

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条第1項の規定に基づき、各務原市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）を策定するため、各務原市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の案の策定に関すること。
- (2) その他計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 体育関係団体の代表者
- (2) 学校教育及び社会教育の関係者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 福祉に関する活動を行う者
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から教育委員会が指定する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長がこれを決する。

(ワーキンググループ)

第7条 第2条に掲げる所掌事項の事前の調査及び検討を行うため、委員会にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループは、委員長が定める事項について、調査及び検討を行う。

3 ワーキンググループの運営については、別に定める。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 委員会の事務局は、各務原市教育委員会事務局スポーツ課に置く。

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

1 この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

2 第6条第1項の規定にかかわらず、この要綱の施行後、最初の会議の招集は、教育委員会が行う。

3 この要綱は、平成28年3月31日限り、その効力を失う。

第3節 委員名簿

(敬称略)

氏名	所属団体
三井 栄(委員長)	岐阜大学地域科学部教授
柳原 幸一(副委員長)	各務原商工会議所会頭
横山 浩之	各務原市体育協会会長
三村 武俊	各務原市スポーツ少年団本部長、各務原市社会教育委員
末松 誠栄	各務原市体育振興会代表
寺尾 二三雄	各務原市シニアクラブ連合会代表
川上 眞吾	各務原市障害者相談員協議会会長
上野 毅	各務原市小中校長会代表
鷲主 英二	各務原市企画総務部長
加藤 壽志	各務原市教育長

事務局：各務原市教育委員会事務局スポーツ課

氏名	役職
中野 浩之	教育委員会事務局長
西森 孝治	教育委員会事務局次長兼総務課長
小川 晃	教育委員会事務局スポーツ課長
飯沼 利行	教育委員会事務局スポーツ課主幹
岩田 剛和	教育委員会事務局スポーツ課スポーツ振興係長
富田 武徳	教育委員会事務局スポーツ課施設係長

以上